

令和5年10月28日
自由民主党浜松

令和5年8月 台湾視察報告書



浜松市議会議員
藤田 典良

●自由民主党浜松 海外視察（台湾）

訪台視察団	鳥井徳孝	加茂俊武	稲葉大輔	露木里江子
	柳川樹一郎	花井和夫	渥美 誠	井田博康
	小野田康弘	神間郁子	藤田典良	鈴木裕之

○視察にあたり、日本と台湾の関係性について

日本と台湾の関係は複雑であり、政治、経済、文化などさまざまな側面が含まれている。歴史的に、日本と台湾には深いつながりがあるが、政治的な関係は複雑な状況にある。

日本と台湾は歴史的に密接な関係を持っており、日本統治時代（1895年から1945年）に台湾は日本の植民地として統治された。この時期、台湾にはインフラ整備や近代化が行われ、一部の人々からは肯定的な面も見られるが、同時に抑圧や人権侵害も起きた。

現在、日本と台湾の間には非公式ながらも密接な経済関係がある。経済面では、多くの日本企業が台湾で事業を展開しており、両国間の貿易や投資が盛んである。

ただし、政治的には日本は台湾を中華人民共和国の一部とは認めておらず、日本政府は中華人民共和国を中国の唯一の合法政府として承認している。これは日本の外交政策の一環であり、日本政府は台湾に対して「非公式な関係」を持っているとされる。

最近では、台湾と日本の間で文化交流や観光の促進が行われている。また、台湾の民間レベルでの日本文化への関心や交流も盛んである。

総じて言えば、日本と台湾の関係は歴史的背景や政治的立場などによって複雑で多面的なものだが、経済や文化面では密接な関係を持っている。

【1日目】

■日 時■ 2023年8月22日（火）15:00～15:45

10分前に台北支部ビル入口集合

■訪問先■ 公益財団法人日本台湾交流協会（日本の大使館にあたる台湾の出先機関）
担当 岡島 副代表

コロナ禍から改めて動き出した世界において、外交的な脅威が心配され、日本においても重要なパートナーとなる台湾における、政治・経済・社会の現状について説明を受ける。



○日本台湾交流協会、台北事務所より「最近の日台関係と台湾情勢」について説明

① 日台関係

2022年秋、日台双方が水際措置を大幅緩和して以来、各種往来や対話の活発化が続いている。

◆台湾要人の訪日

- ・令和5年6月26～29日、鄭文・台湾行政院副院長（副首相に相当）が訪日。
麻生自民党副総裁はじめ要人と面会。
- ・令和5年7月31～8月2日、台湾総統選挙の国民党候補である友宜・新北市長が訪

日。6月には柯文哲・民衆党候補も訪日しており、台湾総統選挙の候補者による訪日が続いている。

◆安倍昭恵夫人が訪台

- ・7月17～20日、安倍昭恵夫人が訪台。
- ・台湾における安倍元総理の人気は高く、昭恵夫人の訪台は大きな注目を集めた。
- ・蔡英文総統、頼清徳副総統がそれぞれ会見。頼副総統は、会見含め計3回昭恵夫人の関連日程に出席。

◆麻生自民党副総裁訪台

- ・8月7～9日、は生身民完副総裁がケタガラン・フォーラム出席のため訪台。現職の自民党副総裁の訪台は1972年の日台断交後で初めて。
- ・漫画「ワンピース」を引用したケタガラン・フォーラムでの演説等、台湾で大きく報じられた。蔡英文総統との会見、頼清徳副総統主催昼食会等、台湾側からは手厚い歓迎。

② 台湾内政

◆2024年1月の総統選に向け、民進党は頼清徳副総統兼党主席、国民党は侯友宜・新北市長、民衆党は柯文哲・党主席の三つの選挙戦が事実上スタート。

◆現在の支持率は、民進党の頼清徳が安定してリード、民衆党の村文春が続き、国民党の侯友宜が3位の状況。無所属出馬の可能性もある郭台銘・鴻海創業者がどう動くかは、各党の選挙戦路に大きな影響を与える。

◆立候補予定者一覧

(党派)	(名前)	(役職)
・民進党	頼清徳	副総統・完王席
・国民党	侯友宜	新北市長
・民衆党	柯文哲	党主席
・?	郭台銘	鴻海創業者



③ 対外関係

◆2022年の欧米からの訪台数はコロナ前(2019年以前)の水準を概ね回復。

◆2022年8月のペローン米下院議長訪台後、欧米からの訪台数は増加傾向。

◆2022年はリトアニアの訪台増加が顕著。英国・ドイツのハイレベルも大膽な台湾支持の動き。

◆ホンジュラスとの断交

・3月15日、ホンジュラスのカストロ大統領がツイッターで、中国との公式関係を発展させるようレイナ外相に指示したと発表。24日、レイナ外相一行が国交樹立作業を進めるため訪中。

・3月26日：ホンジュラスと台湾がそれぞれ断交を発表。蔡英文政権の7年間で、9か国と断交し、残る国交国は13か国に。

◆頼清徳副総統の米国トランジット

・8月15日にパラグアイで行われるサンティアゴ・ペニャ新大統領の就任式に出席するため、8月12～18日(現地時間)、頼清徳副総統が蔡英文総統の特使としてパラグアイを訪問し、その往復路におい米国ニューヨークとサンフランシスコでトランジット。

④ 兩岸関係

◆中国の首近指導部は、「台湾独立」と「外部勢力の干渉」に断固反対するとして、民進完政権との対話・変流を拒絶し、台湾問題に対する米国の介入を強く牽制しな

がら、台湾の国民党、経済界、宗教団体、里長・村長、青少年、メディア等を積極的に中国に招待し、「兩岸の融合的發展」を推進する姿勢を強化。

- ◆台湾では、若者を中心に「台湾人アイデンティティ」が強まる一方、両常統一支持者は10%未満で低迷。

台湾住民のアイデンティティ				
	2008	2012	2016	2023
台湾人	48.4%	54.3%	58.2%	62.8%
中国人	47.1%	42.1%	37.6%	33.0%

※中国人は、「自らは中国人である」との回答と「自らは台湾人でもあり、中国人でもある」との回答の合計

○中国側

- ・「台湾独立」と「外部勢力の干渉」に断固反対する。
- ・「一つの中国」原則及び「92年のコンセンサス」を堅持する。
- ・「二国二制度」（台湾モデル）による平和統一を目指し、台湾側各界との民主的協議を通じて、平和統一のプロセスを推進する。
- ・兩岸交流を回復・活性化させ、兩岸の「融合的發展」を推進し、「心の絆」を強化する。

○台湾側

- ・台湾の自由民主体制を堅持し、台湾海供の平和と安定と現状を維持していく。
- ・中華民国台湾と中華人民共和国は相互に隷属していない。
- ・「一国二制度」（台湾モデル）は受け入れられず、台湾の前途は台湾住民の意志に則って決定されるべき。
- ・「平和、対等、民主、対話」を基礎として、両尾対話・交流を促進する用意がある

⑤ 米台軍事

◆米国防権限法

- ・本年度の同法律は昨年12月に大統領が署名し成立。
～台湾の武器調達や軍事演習を支援するために5年で最大100億米ドルを軍事援助を承認。
～台湾に対し、NATO非加盟の主要国2国及びフィリピンと同等の待遇を与え、台湾が米国から優先的に軍事物資を取得できるよう規定。
～2024年に実施する米海軍主催の多国間海上訓練「リムパック」に台湾を招くよう求める。
- ・来年度の同法律案は、7月14日に下院、7月27日に上院を通過。
～台湾軍支援のため、米国政府に対し、非対称武器の提供加速、包括的な訓練や助言等を求めており、今後両院でのすり合わせ採決後、大統領署名へ。

◆米軍の台湾派遣部隊増員

- ・2月23日米主要メディアは、米軍が台湾軍の訓練のため台湾に派遣してきた米長を今後数カ月間で4倍以上に増やす方針だと報道。昨年の約30人から100～200人にする計画。その後、国防부는、米軍の現役教官が台湾に100名近くいることを認めた。

◆台湾への武器売却強化

- ・4月6日、マッカーシー米下院議長は蔡英文総統との会談後の記者会見において、台湾への武番元型を強化し、予定通り台湾に届くようにしなければならない旨発言。
- ・6月29日、米国政府は、バイデン大統領就任後10度目の台湾に対する軍事売却を発表。

⑥ 経済

◆経済（実質GDP）成長率の推移と当面の見通し

- ・2023年第1四半期における実質GDP成長率は、前年同期比「2.87%」と発表された。本年4月時点での概算値（3.02%）より+0.15%ポイントの上方修正となっている。上方修正となった理由については、外需はより悪化したものの、それ以上に内需が伸びたことによるものである。
- ・2023年通年の実質GDP成長率予測について、対前年比+2.04%と発表された。2022年第4四半期の発表時より40.08%ポイントの下方修正となっている。これは2023年上半期の予想を下方修正したことを受けてである。一方、下半期に関しては前回予想時より上方修正している。
- ・経済をけん引する輸出の回復が遅れており、景気回復も遅くなる見込みが国家発展委員会より示されるなど、今後も注視していく必要がある

⑦ CPTTP

◆CPTPPへの加入実現は、台湾政府最大の課題

- ・中国は2021年9月16日、台湾は同月22日に加入申請。
- ・「台湾は、CPTPPの経済的価値だけでなく、戦略的意義（台湾の対中経済依存相対化、経済的な中国包囲網、アジア太平洋地域での経済的孤立回避等）を重視し、加入を最重要課題と位置付けている。
- ・2022年11月18日、バンコクAPECにおいて、日台バイ会談が実現。蔡英文総統の代理である張忠謀・TSMC創業者から岸田総理に対して直接、台湾のCPTPP加入に対する強い意向が示された。
- ・2023年7月16日、第7回TPP委員会において、英国のCPTPP加入が正式に承認。次のSTEPは台湾加入のためのワーキング・グループ設置。

◆近年、中国は台湾周辺の海上で軍事演習を加速化

◆台湾では潜水艦8隻の建造が計画、早ければ本年中に竣工予定

◆これまで2年間または3年間の徴兵制が、90年代以降兵役期間は段階的に短縮。2008年からは1年間。徴兵制から志願兵制への移行も進められ、現在は4か月間の軍事訓練が義務づけ。台湾有事に対する国民の危機感が非常に高い。

◆台湾の建築技術規則により、建物の高さに合わせた地下を作らなければならない、有事の際の避難所として3.8人分のスペースが確保されている。

◆台湾有事は他人事ではなく、国民一人一人が自分事として捉えていると感じられ、自国を守る、自分の身は自分たちで守るという危機感も感じられた。

■日時■ 2023年8月22日（火）16:00～17:00

■視察先■ 榕錦時光生活園區（ロンジン シーグァン ションフォエューチャー）

台北市政府文化局「老房子文化運動」について

担当者：胡毓雯 博士（女性） 榕錦時光服務中心（サービスセンター）

100 元/名（現地支払）

官民連携による歴史的建造物の活用事例を視察し、サステナブルなまちづくりを学ぶことで、リノベーションまちづくり事業や中心市街地の活性化など本市政策の検証および提言のための調査研究を行う。

<概要>

●榕錦時光生活園區（ロンジン シーグァン ションフオユエンチュー）

日本統治時代から残っていた台北刑務所官舎の建物は 1994 年に一度取り壊しの危機があったが、2013 年に台北市文化局により 20 軒以上の官舎は歴史建築物に登録され、貴重な日本式古民家が保存された。台湾で現存する一番大きな規模の日本式建物で台北刑務所官舎は、当時の建築物の面影を残し、長い歴史を見届けてきた。台北市文化局は歴史建築物を保存して活用するため、新たに文化的な空間を創出する事を目標としている。

長い修復工事を経て、台北刑務所官舎は榕錦時光生活園區として生まれ変わった。園区内で保護されている樹齢数 10 年～100 年の「榕樹（ガジュマル）」と、日本統治時代の地名であった「錦町」から名付けられた。「榕錦（ロンジン）」は黄金時代という意味の「榮景（rongjin）」と同じ発音で、その後に「時光（時間）」を付けることで、リノベーションを通して過去の黄金時代へ戻りたいという願いが込められている。

台北市政府文化局による「老房子文化運動」という、市内に存在する歴史的建造物の保存と活用を目的に、民間企業の資金や経営力を活かしたリノベーション事業の一環で、旧台北刑務所宿舎群が 3 年という年月と 2 億台湾元（約 9.3 億円）をかけ、2022 年 9 月 7 日に商業交流空間としてオープンしている。

◆旧台北刑務所感謝跡地について

台北刑務所台湾の日本植民地時代（清時代）に日本の法律に基づき建設された。刑務所が現在の場所へ移転された後も跡地は保存されることとなったが、現在保存されている史跡は当時の敷地の一部でしかない。当時の台北刑務所は現在の台北市愛國東路から金華街にまたがっていた。

台北（たいほく）刑務所は統治時代、日本人近代建築家の山下敬次郎氏が設計し、当時最新式のペンシルバニア式を採用。当時の台湾としては最大の近代建築物の一つであった。

この刑務所は台湾政府が樹立した後「台北（タイペイ）刑務所」と名前を変えた。1963 年に亀山・桃園地区へ移転するまでの間、羅福星、林幼春、美洵水や頼和などの「抗日人」すなわち日本に対し反政府運動を行った活動家が収監されていた。さらに 1950 年の White Terror の際にも被害者が収容されている。台湾人にとっては歴史的な場所であり日本人にとっては少々皮肉の効いた場所である。

1949 年に台湾新政府が樹立し、法務省が設立されたことにより多くの出稼ぎが台湾で働くようになった。人口の増加により官舎・社宅に入ることが出来ない公務員も多数おり、そこで彼らは上司に口約束の形で許可を取り、台北刑務所周辺に家を建てるようになった。当時の台北刑務所周辺は刑務所職員のみならず他部署の公務員、台湾統治時代初期に渡台した兵士・軍人もいたという。

台北刑務所が移転した 1963 年以降、新しく入居した住民の多くがこの地を離れたが、台北刑務所周辺、華光交流地区は地域の交流の場であり続けた。刑務所入口とも呼ばれたこの地区は、官舎やその周りに暮らす人同士でコミュニティーが作られていた。

空き家になった家には新しい住人が入り、その他の空き部屋も地域住民が有効活用していた。トイレや飲食スペースがあり、また近くには Linshhui 寺があることや都心部からほど近くアクセスしやすいこともよく知られていた理由の一つである。

2007年から2013年頃にかけて、台湾政府は urban renewal project に伴い華光地区に商業施設や金融機関を誘致しようと試みた。住民は立ち退きに反対し、また具体的な利用計画を提出するよう嘆願したが、政権交代に伴う政策の変更、口約束で建てられた家が違法建築と見なされるなど住民にとって不利な状況が続き、2012年6月、ついに住民が折れ立ち退きに応じることとなった。またその間に火災により20棟もの家が失われてしまった。こうして華光地区は2013年の8月に終わりを告げたのである。

しかし2013年の3月、台北刑務所跡地を文化遺産に指定・登録し、保護するためにNP0団体が立ち上がっていた。また施設だけでなく、地区内の古木を守るための活動も始まった。

刑務所の事務所近くにあった壁のうち、現存しているものは「台北刑務所北壁」として1998年に台北文化局に登録されていた。このことを踏まえ、刑務所南側の壁とその近くの日本式宿舍群、また当時の姿を残している入浴場とすぐそばにあるクスノキ、マンゴー、ツバキ、ガジュマルなどの樹木の保護が決定。長い時を刻んできた土地に、また新たな歴史が刻まれることになった。

- ◆日本統治時代について、隣国では負のイメージを持たせるような教育を行っているが、台湾では歴史は歴史として学び、受け入れておりそのこともしっかりと後世に引き継いでいくという意思を感じられた。



■日時■ 2023年8月23日(水) 10:00~10:45

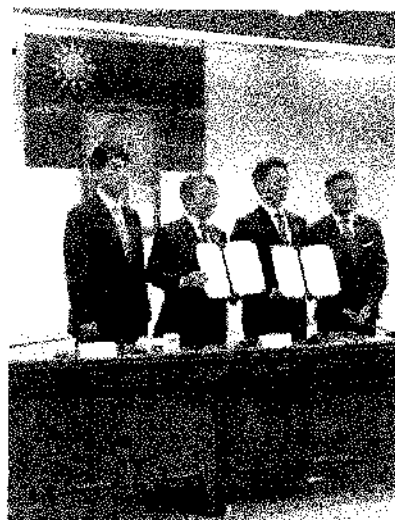
■訪問先■ 台北市政府 市庁舎

本市と台北市の両市長の友好交流協定の調印式及び
共同記者会見に同席するために訪問。

浜松、台北両市長は10時から会談予定10時30分から市庁舎にて行われる両市長共同記者会見にあわせて、戸田議長と合流し記念撮影を依頼。

2013年7月31日に本市と台北市は、「観光交流都市協定」を締結し、5年目となる2018年には、南投県観光産業連盟協会と浜名湖観光圏整備推進協議会（協議会会長は市長）と、友好交流包括協定を締結したが、3年以上におよぶ新型コロナウイルス感染症の影響により、交流事業は停止されている。

公務出張となる中野市長、戸田議長は、台北市の蔣萬安市長と面談の後、共同記者会見にて相互誘客促進キャンペーンについて発表。また、2月下旬に台南市で開催予定の台湾ランタンフェスティバルに、浜松市へ出展依頼があり、9月議会の補正予算に計上されている。



【蔣萬安台北市長 発言要旨】

- ◆今年10周年を迎えた交流をさらに深めるものとしたい。
- ◆コロナ禍前の対日総合交流人数は、合計700万人を超えていた。コロナが緩和されて以来、お互いの往来も徐々に増えており、今年の6月までの訪日した台湾人は108万人、日本から訪台した人数は30万人と回復してきている。
- ◆今回締結する協定によって多くの市民の往来を促進していきたい。

- ◆今回の友好交流協定の締結にあたり、台北市と浜松市は相互交流キャンペーンを実施し、今年の9月から2024年の3月までの期間、両市を訪れた人たちにプレゼントを用意した。ギフトの内容は、台湾の有名なイラストレーターがデザインしたキャンパスバッグ、ポストカード3枚、1日交通周遊カード、貯金箱、日本語の観光マップ。キャンペーン期間中にも台湾ではランタン祭りなど様々な国際的イベントが開催される予定となっている。より多くの浜松市民にこの機会に体験しに来ていただきたいと願っている。
- ◆この協定を通じて、より多くの浜松市民に台北市に来ていただきたいと心より願っている。そしてこれからも台北市と浜松市の友情が長く続くように願っている。謝謝。

【中野市長 発言要旨】

- ◆浜松市、台北市は観光交流協定を締結してから今年で10周年を迎えた。
- ◆台北国際旅行博覧会（TIF）への出店やランタンフェスティバルへのブース出店、更にはVelo-city台北への参加など、さまざまな場面でPRをさせていただいたところ。また、それ以外にも、音楽を通じた交流や野球など、スポーツを通じた子どもたちの交流、観光だけでなく、様々な面での交流を深めてきた。
- ◆台北は、非常に活気あふれる都市、日々進化を遂げる素晴らしい都市であり、花が溢れ、緑溢れる素晴らしい都市である。観光面でのポテンシャルに加え、文化、教育産業など幅広い面で魅力を感じる素晴らしい都市であるということを改めて感じた。一方で、浜松市も海、川、湖といった自然に加え、花や歴史的遺産などの観光資源もあり、産業面からはヤマハ発動機やホンダなど世界に名だたる自動車メーカー発祥の地でもあり、ヤマハ、河合、ローランド、そういった大手楽器メーカーの本社を有する産業都市である。加えて、ユネスコ、創造都市ネットワークの音楽分野で、アジアで初めて加盟するなど、音楽の都としても世界に知られるようになってきている。
- ◆台北市と浜松市、お互いの魅力を生かして相互に交流を深める、そういった観点から今回相互誘客キャンペーンを台北市と連携して行うこととなった。キャンペーンギフトは、ミニハーモニカ、浜松の織物で作った巾着袋、静岡を象徴する味で作った飴5種類（お茶、みかん、いちご、わさび、ソーダ味）、緑茶ティーバッグ（ゆめするが）2個、中国語版の観光パンフレット。
- ◆ぜひ多くの皆さんに台北市から浜松市へ、また浜松市から台北市へ訪れていただき、お互いの連携、協力、交流がさらに深まることを期待している。また観光だけでなく、文化、教育、経済、産業などの多分野でも交流が広がっていくそんな未来を築いていきたい。改めて、台北市のこれから益々のご発展、そして浜松市と台北市の更なる交流促進を祈念する。このような機会をいただき感謝する。

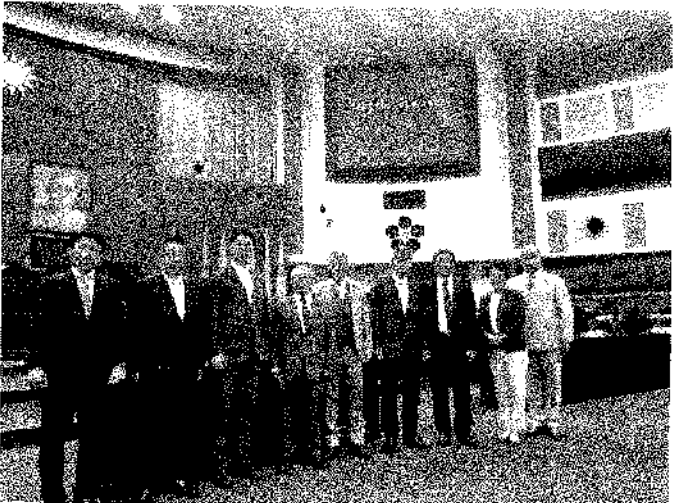
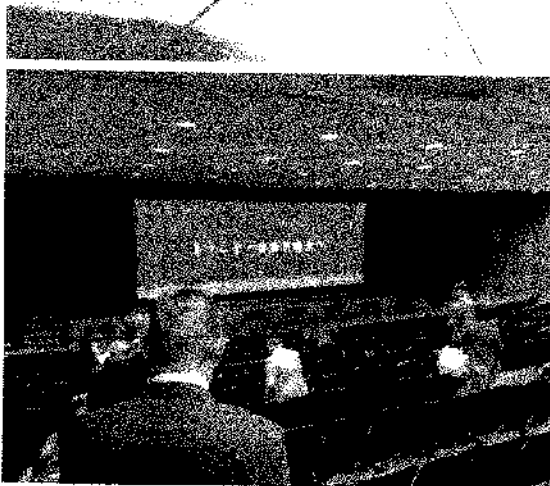
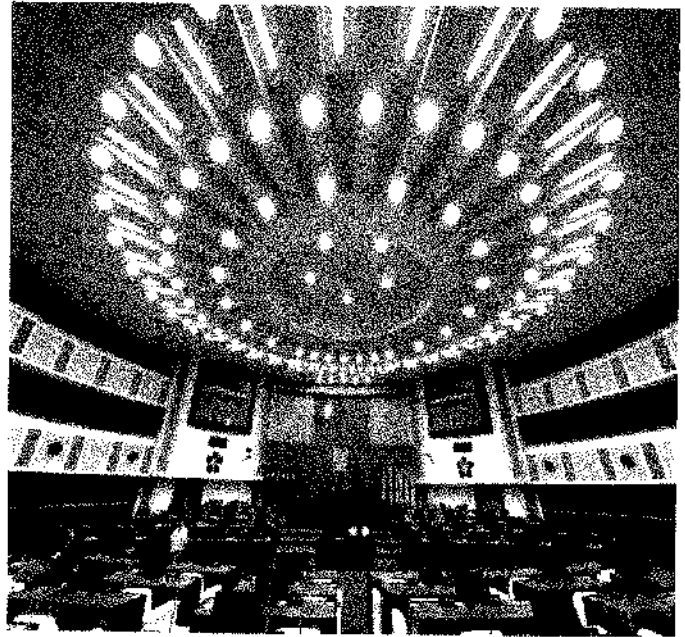
※台北市長は蒋介石ひ孫の蔣萬安氏 史上最年少、将来の総統候補

対中政策については、台湾に一国二制度の受け入れを迫った中国の習近平 国家主席に対し、呼びかけを拒否して、台湾の自由と民主主義を尊重するよう求めた蔡英文 総統の主張に賛同する考えを示している。

■日時■ 2023年8月23日（水）11:00～12:00

■訪問先■ 台北市議会 台北市議会議員

本市と台北市の友好交流協定に基づき、台北市議会議員と意見交換を実施。



【意見交換 要旨】

- ◆台北市の人口は250万人。
- ◆37カ国51都市と姉妹提携を、3つの都市とパートナー提携を、5つの都市と友好都市協定をそれぞれ締結している。
- ◆通常総会は6ヶ月に1回。会計は70日間。
- ◆市長、議長、または議員総数の1/3以上の要請があれば臨時議会を召集可能。
- ◆委員会は、民生委員会、財務建設委員会、教育委員会、運輸委員会、警察衛生委員会、公共事業委員会、法律委員会で構成される。
- ◆議員定数は61名。12の行政区、8つの選挙区から選出される。（現在、第3選挙区の議員1名が国会議員の補欠選挙に当選したため、議員数は60名となっている）
- ◆選挙区1/2の議員が欠員した場合に補欠選挙を実施。
- ◆議長、副議長は記名投票によって、出席議員の半数以上を超えた者が当選となる。
- ◆市議会を構成しているのは男性31人、女性29人で、政党は5つ。中国国民党29人、民主進歩党21人、台湾民主党4人、新党1人、社会民主党1人、無所属4人

■日 時■ 2023年8月23日（水）15:00～17:00

■視察先■ 財団法人資訊工業策進会

台湾におけるデジタル経済の発展、デジタルトランスフォーメーション（DX）の補佐役として、人材育成をはじめ、研究開発など産業ニーズに合致するソリューション提案など、行政および産業のデジタルトランスフォーメーションを推進している資策会の取組について学び、日本の各自治体との連携の状況や今度の取り組みについて調査する。

＜概要＞ 財団法人資訊工業策進会

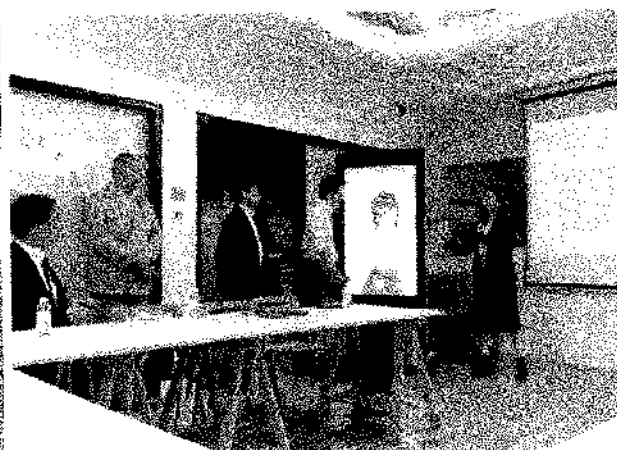
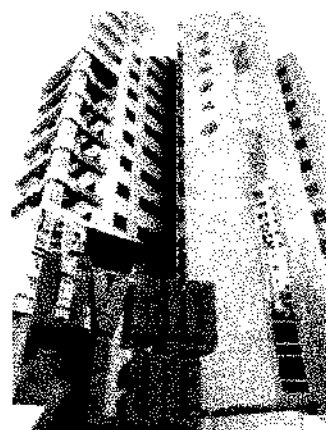
Institute for Information Industry, (略称：III) は 1979 年 7 月 24 日、民間、政府が共同で創設した法人組織（NPO：Nonprofit Organization）であり、「情報技術有効利用の推進、国家全体の競争力向上、情報産業発展環境及び条件の充実、情報産業競争力の増強」を使命としており、情報産業に関する公共政策の企画・推進を行ってきた。官民連携により、情報通信技術の先駆的な研究開発、情報応用の深化と拡大、教育や訓練といった活動、国家技術インフラの展開に貢献している。デジタル・トランスフォーメーション・イネーブラーとして、台湾における情報通信技術の革新と応用を促進し、デジタル経済の発展を支援することを目的としている。

■視察先■ Living Lab+（リビングラボ）

コンテンツインタラクティブテクノロジー、スマートスポーツとフィットネス、サービスロボット、およびスマート自動販売機、スマート看板、インテリジェントなデータ管理と分析などの商業ビルのデモンストレーションのための革新的なサービスデモンストレーションフィールドである Living Lab+を視察し、台湾におけるスタートアップの技術マッチングや企業の連携の現場から、今後のスタートアップ支援や技術革新、課題解決に関する手法について調査研究する。

＜概要＞ Living Lab+

テクノロジーと産業を結び、未来のサービスを生み出すイノベーション拠点、クロスドメインのイノベーション・プラットフォームとして、体験価値により、テクノロジー、クリエイティブ、デザインに係る人々が共同で将来の製品やサービスを探索、テスト、製作できる場所である。クロスドメイン・イノベーションとは、競争力、市場シェアを強化し、組織のイノベーションと創造性を高めるための方法。クロスドメイン・イノベーションには、協働する相手の専門知識の不足、不十分な新技術開発、市場と投入コストに関する不確実性などの問題が存在している。Living Lab+は、クロスドメイン・イノベーションが抱える問題解決を目指し、さまざまなニーズに応じたマッチング、プログラム、モデル設計サービスを提供し、プロジェクト形成やリソースの構築を目指している。





【意見交換 要旨】

- ◆企業側のニーズ、開発の方法がわからない方、技術を持っているがマーケティングが不得手な方などを全て Living Lab+ に集約し、様々な方が交流できるような場を作っている。
- ◆主に連携しているソリューションは、スマートディスプレイ応用ソリューション、スマートシティ応用ソリューション。「電子ペーパー」を応用した太陽光エネルギーを利用したバス停案内表示がある。配線工事等も特に不要で、曇りや雨の日でも太陽光発電と内蔵された蓄電池で連続 14 日間利用することが可能。屋外用液晶ディスプレイを比較すると消費電力は 1% 未満。他にも没入型ディスプレイやチャット GPT を活用した AI ナビゲーターなど様々なソリューションを開発及び実証実験を行なっている。
- ◆Living Lab+ は、100% トリプルアイの資金で運営をしている。トリプルアイが自己資金で運営している理由は、政府の KPI や目標に制限されずに、色んなアイデアを受け入れることができるため、本当のオープンイノベーション施設を実現することができる場所にある。
- ◆Living Lab+ は、様々な設備を持っており、新製品の開発や実験、開発したものの展示など、事前申請をすれば誰にでも貸し出すことが可能で、あらゆる面から可視化することが可能。
- ◆トリプルアイでは、一緒に開発した製品を実証実験としてデータ収集をし、出来上がった物の商品管理やマーケティング、コンサルティングサービスまで提供できる場になっている。

■日時■ 2023年8月24日（木）9：00～10：30

■視察先■ 新光三越百貨店 總公司商品部餐飲和食品

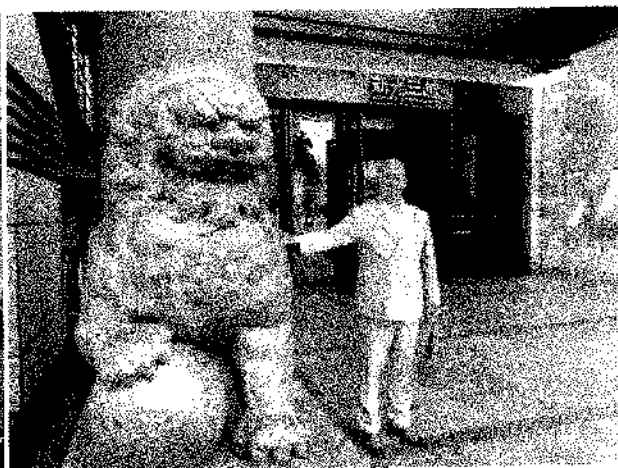
本市の農林水産品の海外販路拡大事業において、対象国の台湾の流通の現状を確認し、これまでの成果と課題、コロナ禍における状況の変化や輸出規制の最新情報を調査し、今後の本市産品の取り扱いや商談ルートの拡大に対する戦略計画について研究を行う。

<概要>

海外販路拡大事業の沿革・総合計画第1次推進プラン分野別計画搭載「農林水産業の6次産業化を進め、国内はもとより輸出版売に向けた戦略的経営を支援する」の推進体制として、平成26年度に「農林水産物・食品輸出促進委員会」を設立。※ジェトロ浜松事務所開所など契機・主な事業として、海外食品見本市出展支援、テストマーケティング支援、プロモーション（浜松フェア in○○）、セミナー、バイヤー招聘・マッチング、販路開拓のための市場調査を実施・主な対象国は、台湾、香港、マレーシア、シンガポール等

台湾事業の状況・H27～31 台中「裕毛屋」でのプロモーション ※H28 に市長トップセールス・H30～31 フードタイペイ出展 ※H29 に視察・R2～台中の裕毛屋の営業状態の変化（コロナ禍一時閉店→再開、新規出店計画の中止）フードタイペイ（ジャパンパビリオン）への出展ニーズの減少により中断・R5 市長訪台と合わせたプロモーション実施に対応できるよう予算計上したが、スケジュールが合わず8月実施は見送り・輸出規制輸出不可…トマト、植物検疫証明書不要で可…緑茶（製茶）、コメ その他の多くは、植物検疫証明書を添付すれば可

これまでの実績・裕毛屋を展開する㈱裕源は、国内（厚木市）に拠点を持っていることから、試行期の事業者に対してテストマーケティングの機会を提供することができた。・一部事業者は商流を確立した。うなぎいも協同組合（沖縄県物産公社→商田實業有限公司→三越ほか）三立製菓㈱（裕毛屋ほか）【質問事項】① 輸出規制に関する最新の情報や傾向 ② 人気商品や購買層などマーケティングに関するデータ ③ 浜松産品の取り扱い状況。「うなぎいも」の評価や売れ行き ④ 見本市等、バイヤーの商談ルートの現状や今後の傾向 ⑤ 他自治体の取り組み事例



【意見交換 要旨】

- ◆コロナによって経済は大きな影響を受け、今もまだ回復途上ではある。台湾はコロナ禍においても半導体が牽引しており、経済が好調に推移している。台湾の富裕層によって、高級スーパーも小売業界の一翼を担うマーケットとして存在している。2020年から世界的にコロナの猛威に見舞われたが、台湾はコロナをしっかりとコントロールしていたため他国と比較しても普段通りの生活がおくることができた。
- ◆新光三越の売上は、2020年に最高売上を記録。2021年にコロナの拡大に伴い、レストランやフードコートで飲食が全面禁止の期間が約2.5ヶ月あって非常に厳しい状態だったが、それでも2021

年も2020年に匹敵するほどの売上を上げることができた。2022年は年間で1億4000万人の延べ来客数があり、約886億台湾元（日本円で約3,900億円）と売上記録の最高額を塗り替えた。台湾の人口は2300万人ということもあり、1億4000万人のお客様が来ていることを鑑みれば、新光三越が如何に台湾の方々に浸透されているのが理解できる。

- ◆台湾のお客様は、日本のクオリティや製品に対する関心が高いが、輸出入の面でハードルがあるのも事実。例えば、日本では細かく成分調査されていないものでも、台湾は輸入品の糖分や油などの成分表示など細かい記載義務があり、トランス脂肪酸などの含有量においても輸入できないものがあるため、台湾への輸出のために成分を調査しなければならずコストがかかる点が挙げられる。
- ◆台湾は外食文化があり関心が高いため、百貨店ではフードコートに力を入れている。日本のシャインマスカットや桃は人気が高い。台湾で手に入らないものが売れる傾向。日本では冷えたビールが人気だが、体の代謝を下げるような冷えた飲み物を嫌気する傾向もあって冷えてないビールを飲むなど、健康に対する関心軸は日本人以上に高い。

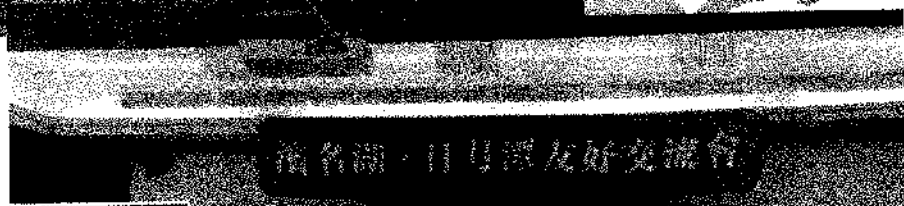
■日 時■ 2023年8月24日（木）15:30～16:50

■浜名湖・日月潭友好交流会■ 17:00～ 日月潭 大来亭（ホテル デルラゴ）

本市主催で、浜松市と日月潭のある南投県政府関係者及び観光関連の関係者との交流会に出席。相互交流に加え、相互の観光施策の取り組みについて意見交換を実施。

次 第

- 1 主催者挨拶 浜松市長 中野祐介
- 2 来賓挨拶 南投県政府観光処長 陳志賢
- 3 乾 杯 浜松市議会議員 戸田 誠
- 4 両都市紹介 浜松市プレゼンおよび南投県プレゼン
- 5 閉会挨拶 浜松市産業部観光・ブランド振興担当部長 齊田 一朗



■日 時■ 2023年8月25日(木) 9:00~10:30
■視察先■ 日月潭・国家風景区管理处(向山ビジターセンター)

本市と観光交流包括協定を締結している日月潭。コロナ禍という事態に直面して、コロナ禍前とコロナ禍中、コロナ禍後の観光戦略と実態について調査し、交流協定における今後の在り方や、観光振興計画を学ぶ。
また、日月潭の観光戦略と実態について調査し、交流協定における今後の在り方や観光振興計画を学び、浜名湖の観光政策に活かす。

＜概要＞

協定名称：浜名湖と日月潭の友好交流に関する協定
締結日：平成28(2016)年8月28日
締結場所：日月潭(雲品ホテル(南投県魚池郷日月潭))
調印者：浜名湖観光圏整備推進協議会会長：鈴木康友浜松市長、
南投県観光産業連盟協会理事長：李吉田(一)
川勝平太静岡県知事
林明濤県南投県知事
交通部観光局日月潭国家風景区管理处 処長 張振乾

※包括協定としての上記のほか、以下の組み合わせで個別協定も締結された。

日本側		台湾側
(公財)浜松観光コンベンションビューロー	⇔	日月潭観光旅游協会
浜名湖遊覧船株式会社	⇔	南投県渡船・遊覧船協会
天竜浜名湖鉄道(株)	⇔	台湾鉄路管理局(集集線)
遠鉄観光開発(株)(ロープウェイ・遊園地)	⇔	日月潭ロープウェイ(株)(九族文化村ほか)

天浜線・集集線の協定は8月27日に締結

協定主旨：浜名湖と日月潭の友好交流の推進により、湖の資源を最大限に活かし、観光地としての魅力の一層の向上を図る。

- ・相互に湖の魅力や観光情報を発信し、双方の情報発信力の強化に努める。
- ・両地域の事業やイベントへの参加に努めるとともに、両地域におけるプロモーション活動等に相互協力する。
- ・湖の魅力を活かしたサイクリングや遊覧船、ロープウェイ等の個別分野の連携や観光機構、観光団体等の民間交流を促進する。
- ・湖の魅力を活かした誘客や地域活性化の取組等について共有し、各地域の魅力向上や交流人口の拡大を目指す。

締結理由：日月潭は台湾最大とも言われる観光地であり、ロープウェイや遊覧船、ローカル鉄道などもあり、浜名湖と状況が近似している。

- ・サイクリングのみならず、観光分野全般の交流を推進し、浜名湖を発信する機会と捉えられる。
- 交流事業：（締結後）平成 28 年 10/8 11/12-13 12/16（その他民間）台湾交通部観光局長が来浜し、天浜線、遊覧船、ロープウェイ視察。日月潭のサイクリングイベントに「浜松・浜名湖」のブース出展（企画旅行のサイクリング参加訪問団同行）。湖サミット開催に向けた南投県との調整。
- ・天浜線、集集線いずれかの使用済乗車券（2016. 8. 27- 2017. 12. 31 間のもの）を相手側窓口に持参すると、1 日乗車券を無償提供。
 - ・訪台時に受領した記念品と日月潭の写真をロープウェイチケット売り場に展示。平成 29 年 10/27 11/12 12/6-8（その他民間）サイクリングイベント、湖サミットについて南投県政府にて打ち合わせ。日月潭サイクリングイベントへ出展し、浜名湖サイクリングの PR を実施。浜名湖、西湖、日月潭関係者による、湖サミット開催。

- ◆ビジターセンターは、一見すると半地下のようになっており、自然の中に溶け込むような佇まいとなっている。建物は二つの棟で構成され、屋上から日月潭が一望することが可能。建物の内外に水と芝生があり、RC工法による無機質なものと対比が現代的な建物であり興味深かった。
- ◆ビジターセンターには、年間 10 億円が国から拠出されており、ビジターセンターの運営費や観光施策に活用されているという。浜名湖の予算とは比較できないほどの差がある。また、全長約 30km の自転車周遊道路が綺麗に整備されており、湖を一周する楽しむことができる。年間 800 万人が訪れる日月潭のこうした観光施策を参考に、浜名湖の観光施策にも活かしていきたい。

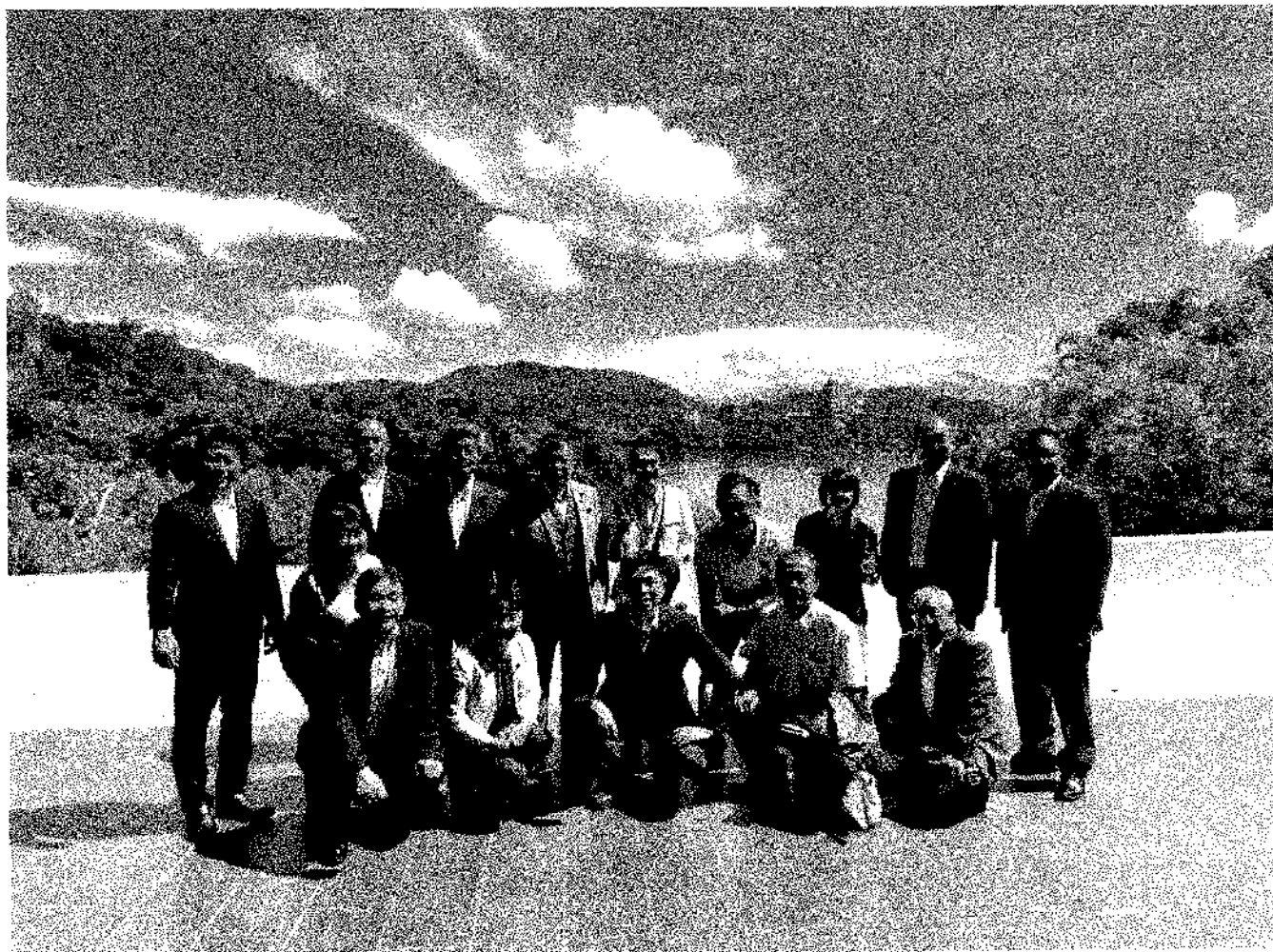
【意見交換 要旨】

- ◆日月潭は昔からハネムーンのメッカとなっており、多くの若者が写真撮影に訪れる。
- ◆紅茶、林業、陶芸、盆地の地形により気候や水源に恵まれ、野菜や花の栽培が盛ん。
- ◆日月潭の木材を使ってビジターセンターを作った。直線で作った方が建築しやすいが、曲線を主に採用し建築した。ビジターセンターには、日月潭周辺の集集、陶芸、木工、紅茶その他農産物を展示。併設されているギャラリーには、季節ごとに異なるテーマで展示会を開催している。また、3D 立体映像および HD ブルーレイ高画質により当地の魅力を魅力を感じられるようにしている。
- ◆日本統治時代（1931 年）に日本が日月潭に水力発電を作った。当時、日月潭第一発電所（現大観発電所）は、10 万キロワットの発電量を誇る東洋一の水力発電所として台湾全島に電力を供給した。この巨大事業に取り組んだ日本人が「台湾電力の父」と今も台湾人から尊称されている松木幹一郎。



令和5年8月29日
自由民主党浜松

台湾視察報告書



浜松市議会議員
鈴木 裕之

日時：2023 年 8 月 22 日（火）15：00～15：45

訪問先：公益財団法人 日本台湾交流協会

目的：外交の脅威が心配される中、日本の重要なパートナーである
台湾の政治・経済・社会等の概況について説明を受ける。



最初の訪問先として、日本台湾交流協会、台北事務所を訪問し、昨今の日台関係や台湾情勢についてお話を伺った。近年の国際情勢の変化から、萩生田自民党政調会長、世耕参議院幹事長など日本の国会議員による台湾訪問が増えている。また、本年 7 月 17 日～7 月 20 日には、故安倍晋三首相の昭恵夫人が訪台し、蔡英文総統や頼清徳副総統などと相次いで会見するなど、大きな注目を集めたのも記憶に新しい。8 月 7 日～8 月 9 日においては、麻生太郎自民党副総裁がケタガラン・フォーラム出席のため訪台し、台湾海峡の抑止力として「日米台が連携して戦う覚悟」が求められていると発言したことは日台双方で大きく報道された。

外交関係においては、本年 3 月にホンジュラスと断行するなど、蔡英文政権の 7 年間で 9 カ国と断行し、残る国交国は 13 カ国になった。これは言うまでもなく、中国の外交圧力に起因しているが、だからこそ日台地方政府間や民間交流が過去にないほど重要性を増している。

そうした中、2024 年 1 月 13 日に予定されている台湾総統選挙が事実上スタートしている。現在の支持率は、民進党の頼清徳副総統がリードし、続いて民衆党の柯文哲党主席、国民党の侯友宜 新北市長が続いている。将来の台湾の在り方が大きく左右されかねない大切な選挙は世界中から注目されている。日本のエネルギーの 90%は台湾海峡を通して日本に入ってきているため、台湾が中国に併合され、台湾海峡を封鎖されたら日本に与える影響は計り知れない。台湾海峡の安定は日本にとっても死活問題だ。政治的に台湾が中国に併合されないよう、注視する必要がある。

現地の台湾住民のアイデンティティーはどうかという点、本年 6 月に台湾政治大学選挙研究センターが世論調査をしたところ、独立支持者は約 26%、現状維持が約 61%、統一支持者が約 7%となっている。また、「自らは台湾人である」との回答と「自らは台湾人でもあり、中国人でもある」との回答の比率を見ると、自らは台湾人であると回答する人の割合が年々増している（表 1）。

台湾住民のアイデンティティー				
	2008	2011	2016	2023. 6
台湾人	48. 4%	54. 3%	58. 2%	62. 8%
台湾人でもあり中国人でもある	47. 1%	42. 1%	37. 6%	33. 0%

表 1

米国はどうかという点、台湾に対して NATO 日加盟国の主要同盟国及びフィリピンと同等の待遇を与え、台湾が米国から優先的に軍事物資を取得できるように規定するなど、台湾海峡の防衛のために、軍事連携及び軍事支援を強めている。また、台湾の武器調達や軍事演習を支援するために 5 年間で最大 100 億米ドルを軍事援助を承認した。

台湾経済においては、経済を牽引する輸出の回復が遅れており、景気回復も遅くなる見込みが示されるなど、今後も注視していく必要がある。また、台湾は中国同様、TPP 加盟を目指しており、台湾政府最大の課題となっている。

台北事務所の方々からは、中国と台湾の軍事バランスについて、近年、中国は台湾周辺の海上で軍事演習を加速化させるなど中国に大きく偏り始めているというお話もあった。一方、台湾では 160 億米ドル超（推定）で潜水艦 8 隻の建造が計画されており、早ければ本年中に竣工する予定。また、台湾の徴兵制の変更点についてお話を伺った。1950 年代から 80 年代にかけては、2 年間または 3 年間の徴兵制が敷かれていたが、その後、国際情勢の変化や少子化などを背景に、90 年代以降兵役期間は段階的に短縮され、2008 年からは 1 年間に。徴兵制から志願兵制への移行も進められ、2018 年を最後に、1 年間の兵役に服する義務のある人はいなくなり、現在は 4 か月間の軍事訓練が義務づけられるだ

けとなっていた。現在、台湾では18歳以上の男子に4か月間の兵役を義務づけているが、これを2025年からは1年間に延ばし、2005年1月1日以降に生まれた男子に適用するとしている。台湾有事に対する国民の危機感が非常に高いのがよく理解できた。

特に興味深かったのは、有事の際の避難先についてだ。台湾では、建物を建てる際に法律によって地下を作らなければならない、3.8/人当たりの避難所があるという。また、その避難先はアプリ（防空避難施設マップ <https://adr.npa.gov.tw/indexgo>）によって一目瞭然になっている、ということであった。

調べてみると、『建築技術規則』の中で「公共施設や6階以上の建物などは、面積や人員に応じた大きさの防空避難施設を作らなければならない」と定められていた。建物を建築する際から空襲などの有事を意識している感覚は日本ではなく、また、年に1回、30分の防空演習が全土で行われるという点についても、置かれている状況の違いを再認識せざるを得なかった。本市には航空自衛隊があり、有事の際の標的になることも容易に想像がつくが、避難先の確保や市民への周知など、多くの課題や検討すべき必要性があることをあらためて実感させられた視察先であった。

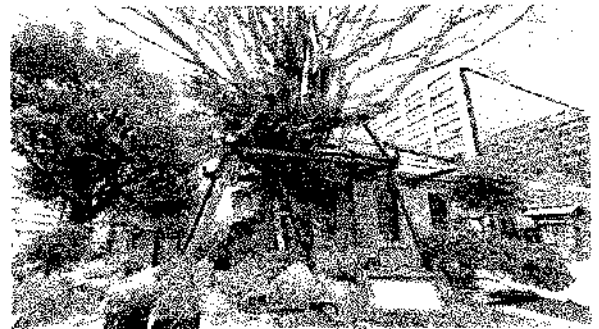


日時：2023年8月22日（火）16：00～17：00

視察先：榕錦時光生活園區 榕錦時光服務中心

台北市政府文化局「老房子文化運動」について

目的：官民連携による歴史的建造物の活用事例を視察し、サステナブルなまちづくりを学ぶことで、リノベーションまちづくり事業や中心市街地の活性化など本市政策の検証及び提言のための調査研究を行う。



榕錦時光生活園區に降り立つと、往年に作られた煉瓦作りの建物と、ガジュマルという亜熱帯特有の大きな植物にまず目に留まった。日本統治時代に、福住町と錦町という2つの町があったこの地に、刑務所や公営の宿舎が建設されたことで次第に田畑から日本人が集まる住宅地へと姿を変えたこの地は、立壊しの危機も乗り越えながら幾度のリノベーションを経て、現在の姿となっている。当時の日本の面影を感じることができる建物を後世に残そうとする台湾人の計らいが嬉しく感じた。かくいう、当時の日本人も台湾の方々への配慮や気遣いがあったことは特筆したい。台湾刑務所の6代目所長だった志豆機源太郎は、1873年に日本で生まれ、65歳の時に台北市で亡くなった。志豆機は、受刑者の衛生の改善に取り組んだことはもちろん、受刑者に技術を学んでから出所してほしいと願い、受刑者たちが刑務所で作成した製品を日本で販売して出所後の資金にしてあげたり、受刑者の脚気予防のため食事に配慮したりと、予防医学の考え方も刑務所に導入したという。

この時代の植民地支配というのは、現地住民に対して教育は与えられず、ましてや予防医学の考えなどを取り入れる事はなかった。欧米列強と画して、日本は植民地支配ではなく、同じ日本人として台湾人を扱い、教育がなかった台湾に教育を取り入れ、当時の日本の国家予算の3分の1を台湾に注ぎ込み、台湾のインフラ整備や病院の建設、大学の建設（旧帝大）など、台湾の発展のために力を尽くした事はここで述べるまでもないが、榕錦時光生活園區を視察すると日本のそれらの取り組みの一端を垣間見た気がして感慨深く感じた。

リノベーションで整えられた現在の建物には、カフェ、ベーグル、日本式のワッフル、日本の和菓子店、日本式のお弁当、日本式の餃子居酒屋、浴衣の着付け体験など日本を感じられる多種多様な店舗がテナントとして入居しており、訪れた人々が楽しめるような工夫が点在している。

意外だったのは、ヘルスケアサービスのテナントだ。看護師が常駐し、健康者～疾患を罹患している幅広い方々に対して、健康予防サービスやケアサービス等を提供していた。世界に先駆けて超高齢社会を迎えた日本。本市でもヘルスケアサービスを街づくりの中にマージさせていく取り組みが必要だと感じた。

【意見交換 要旨】

榕錦時光生活園區は、日本統治時代に建設された台北刑務所施設の一部。日本人近代建築家の山下敬二郎氏が設計し、当時の最新式のペンシルバニア式で建設された台湾最大の近代建築物の一つであった。1994年に取り壊しの危機にあったが、台北刑務所跡地を保護するための活動が始まり、2013年に台北市文化資産審議委員会によって、刑務所南側の壁と7棟の刑務所宿舎、また当時の姿を残している浴場とすぐそばにあるクスノキ、マンゴー、ツバキ、ガジュマルなどの樹木が文化遺産に指定・登録し、保護されることが決まった。

台北市文化局は歴史建築物を保存・活用し、新たに文化的な空間を創出する事を目標とした「老房子文化運動 2.0」（古民家文化運動）を実施。民間企業の資金や経営力を活かしたリノベーション事業の一環により、3年間で2億台湾元（約9.2億円）の資金をかけて、新たな商業交流空間として2022年に榕錦時光生活園區として生まれ変わった。本来はもっと広大な敷地に建物があったが殆ど建て壊して現在の南側の一部だけが残った。

修復プロジェクトは2007年5月に始まり、現在も進行中。最終的には、現在よりも8施設増えて合計15の施設になる予定。修復プロジェクトが始まった当初は、見栄えを重視してステップ用の石を多く配置したが、バリアフリーの観点から石をなくしてフローリングにするなど車椅子の方が通れるように変更した。また、ガジュマルは生命力が強いため根も大きく成長する。そのため、根に引っかかって訪問者が転倒の恐れがあり、通行人の邪魔にならないように根を除去している。（この根を切る技術は日本の技術を取り入れている）

今後も同地区内に新たな建設を予定しているが、難聴や盲目の方なども利用できる施設の建設を検討中。背景としては、台湾も日本同様に高齢化社会を迎えていることがある。そのため、誰もが健康的な生活を送り、幸福を満たすといったレクリエーションとしての場も果たすなど、ヘルスケアの視点で施設を発展させてきた経緯がある。今後も街の発展とヘルスケアシステムの向上を目的に、レクリエーションパークやヘルスケアパーク、リビングパークの拡大建設を進めていく予定。「老房子文化運動 2.0」の推進を通じて子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活することができる憩いの場となることを望んでいる。

台湾は国土面積が狭いため、マンションが多く、そのため人口密度が高くなっている。リノベーションに対しても賛否両論で、取り壊した方がいいと言う人もいれば残した方が良いという人もあった。また、台湾は森林伐採をしてはいけないことになっており、建材の調達も海外から調達する。建築については伝統工法を優先するより、新しい技術をスペインなどの海外から取り入れたりしている。少子高齢化のため、技術継承が課題。そのため大学等の教育現場で技術を伝承している。重要文化財のためクレーンは付けられなかったり、施設は一晩中ライトアップして明かりは消さずにいるなど、苦労することもあるが歴史的建造物は教育の観点からも有益と考えている。台湾の人々市民の日本への意識としては、日本が好きという人が多く、コスプレ、着物体験などは特に人気がある。日本統治時代の建物

して後世に残し
え方は今後も継



をリニューアル
していくという考
続するだろう。

日時：2023年8月23日（水）10：00～10：45

視察先：台北市政府 市庁舎

目的：本市と台北市の両市長の友好交流協定の調印式及び
共同記者会見に同席するために訪問。

浜松市と台北市、両市長による調印式及び共同記者会見に同席することができた。非常に和やかな雰囲気の中、両市の更なる友好のために新たな協定を締結することができ、議員の一人として嬉しく思った。先述の通り、台湾は中国の外交圧力により、国交を結んでいる国が減少しており、こういった都市間連携によって草の根の交流を促進することは大変意義のあることだと感じた。今後も日本と台湾の相互交流のため、浜松が台湾の良いところを取り入れ、サステナブルな都市として発展させることができるよう、可能な限り交流促進に尽力していきたい。



【蔣萬安台北市長 発言要旨】

台北を代表してまずは浜松市の皆さんに感謝申し上げる。今年10周年を迎えた交流をさらに深めるものとしたい。浜松市の鈴木元市長や中野市長のご支援に感謝を表したい。例えば、浜松市は今年の2月に開催したランタンフェスティバルで浜松市の訪問団とお会いして家康くんのぬいぐるみを頂くなど、すごく印象が残っている。コロナ禍前の対日総合交流人数は、合計700万人を超えていた。コロナが緩和されて以来、お互いの往来も徐々に増えており、今年の6月までの訪日した台湾人は108万人、日本から訪台した人数は30万人と回復してきている。

今回締結する協定によって多くの市民の往来を促進していきたい。今回の友好交流協定の締結にあたり、台北市と浜松市は相互交流キャンペーンを実施し、今年の9月から2024年の3月までの期間、両市を訪れた人たちにプレゼントを用意した。ギフトの内容は、台湾の有名なイラストレーターがデザインしたキャンパスバッグ、ポストカード3枚、1日交通周遊カード、貯金箱、日本語の観光マップ。キャンペーン期間中にも台湾ではランタン祭りなど様々な国際的イベントが開催される予定となっている。より多くの浜松市民にこの機会に体験しに来ていただきたいと願っている。

中野社長、戸田議長、そして浜松からお越しの議員の皆様は改めて感謝の意を表したい。観光都市協定を締結した10周年のこの大きな節目に、浜松市と友好交流協定を締結することを本当に嬉しく思っている。この協定を通じて、より多くの浜松市民に台北市に来ていただきたいと心より願っている。そしてこれからも台北市と浜松市の友情が長く続くように願っている。謝謝。

【中野市長 発言要旨】

本日は将市長、戴議長をはじめ、多くの台北の皆さんに暖かく迎え入れていただき本当にありがたい。おかげさまで浜松市と台北市は2013年に観光交流協定を締結してから今年で10周年を迎えることができた。この10年間浜松市と台北市様々な形で氷の上を広げてきた。浜松市としても台北国際旅行博覧会（TIF）への出店やランタンフェスティバルへのブース出店、更にはVelo-city台北への参加など、さまざまな場面でPRをさせていただいたところ。また、それ以外にも、音楽を通じた交流や野球など、スポーツを通じた子どもたちの交流、観光だけでなく、様々な面での交流を深めてきた。

台北は、非常に活気あふれる都市、日々進化を遂げる素晴らしい都市であり、花が溢れ、緑溢れる素晴らしい都市である。観光面でのポテンシャルに加え、文化、教育産業など幅広い面で魅力を感じる素晴らしい都市であるということを改めて感じた。一方で、浜松市も海、川、湖といった自然に加え、花や歴史的遺産などの観光資源もあり、産業面からはヤマハ発動機やホンダなど世界に名だたる自動車メーカー発祥の地でもあり、ヤマハ、河合、ローランド、そういった大手楽器メーカーの本社を有する産業都市である。加えて、ユネスコ、創造都市ネットワークの音楽分野でアジアで初めて加盟するなど、音楽の都としても世界に知られるようになってきている。台北市と浜松市、お互いの魅力を生かして相互に交流を深める、そういった観点から今回相互誘客キャンペーンを台北市と連携して行うこととなった。キャンペーンギフトは、ミニハーモニカ、浜松の織物で作った巾着袋、静岡を象徴する味で作った飴5種類（お茶、みかん、いちご、わさび、ソーダ味）、緑茶ティーバッグ（ゆめするが）2個、中国語版の観光パンフレット。

ぜひ多くの皆さんに台北市から浜松市へ、また浜松市から台北市へ訪れていただき、お互いの連携、協力、交流がさらに深まることを期待している。また観光だけでなく、文化、教育、経済、産業

などの多分野でも交流が広がっていくそんな未来を築いていきたい。改めて、台北市のこれから
の益々のご発展、そして浜松市と台北市の更なる交流促進を祈念する。このような機会をいただき感謝
する。



日時：2023年8月23日（水）11：00～12：00

視察先：台北市議会

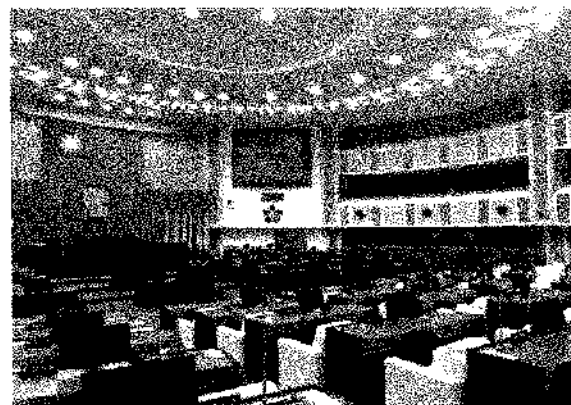
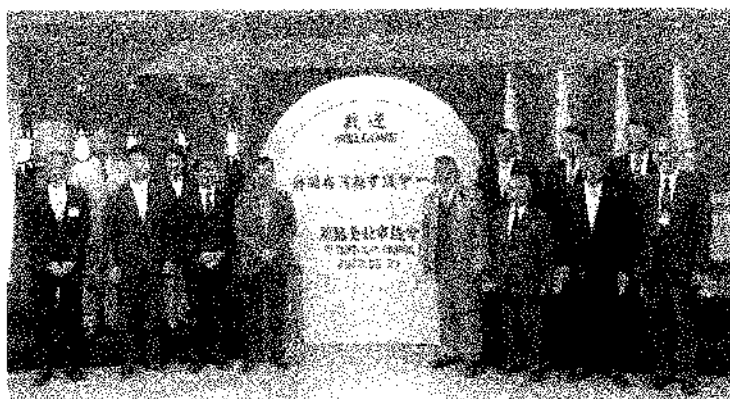
目的：本市と台北市の友好交流協定に基づき、台北市議会議員と
意見交換を実施。

台北市議会では、陳炳甫市議会議員をはじめ、当局の方々に
温かい歓迎を受けた。台北市議会の仕組み等を説明いただき、
日本に留学経験がある陳議員との意見交換は非常に有意義なものであ
った。「議会は力を持ち、政府は能力を持ち、市民は利益を得る」と
いう3方良しの目標を達成するために台北市政府及び市議会は協力し
ている、というお話は感銘を受けた。浜松市も参考にすべき点として
興味深く拝聴した。今後も台北市議会との交流をより一層促進してい
きたい。

【意見交換 要旨】

- ・台北市の人口は250万人。
- ・37カ国51都市と姉妹提携を、3つの都市とパートナー提携を、5つの都市と友好都市協定をそれぞれ締結している。
- ・通常総会は6ヶ月に1回。会計は70日間。
- ・市長、議長、または議員総数の1/3以上の要請があれば臨時議会を召集可能。
- ・委員会は、民生委員会、財務建設委員会、教育委員会、運輸委員会、警察衛生委員会、公共事業委員会、法律委員会構成される。
- ・議員定数は61名。12の行政区、8つの選挙区から選出される。（現在、第3選挙区の議員1名が国会議員の補欠選挙に当選したため、議員数は60名となっている）
- ・選挙区1/2の議員が欠員した場合に補欠選挙を実施。
- ・議長、副議長は記名投票によって、出席議員の半数以上を超えた者が当選となる。
- ・市議会を構成しているのは男性31人、女性29人で、政党は5つ。中国国民党29人、民主進歩党21人、台湾民主党4人、新党1人、社会民主党1人、無所属4人。





日時：2023年8月23日（水）15：00～17：00

視察先：財団法人情報工業策進会（Institute for Information Industry
（略してトリプルアイ：III））Living Lab+

目的：台湾におけるデジタル経済の発展、DX（デジタルトランスフォーメーション）の補佐役として人材育成をはじめ、研究開発など産業ニーズに合致するソリューション提案など、行政及び産業のDXを推進しているIIIの取組みについて学び、日本の各自治体との連携状況や今後の取組みについて調査する。また、Living Lab+においては、台湾のスタートアップ支援やイノベーション、課題解決に関する手法等について調査研究する。



【意見交換 要旨】

財団法人情報工業策進会（以下、トリプルアイ）は、1979年に設立された半官半民の施設であり、台湾で2番目に大きな財団法人。以前は、自分たちで開発した技術しか実証実験及び研究開発ができなかったが、2022年12月からオープンイノベーションの施設に変更となり、新しい発想があれば誰もがここで実証実験ができ、ここでマッチング対象を探ことができ、クローズドイベントサービスを利用できるようになった。それに伴い、Living Labではなく、Living Lab+と名前を変更した。企業側

にニーズがあって、どうやって開発するかわからない方や、技術を持っているが誰に売り込むべきかわからない方などを全て Living Lab+ に集約し、様々な方が交流できるような場を作り上げている。

現在、主に連携しているソリューションは、スマートディスプレイ応用ソリューション、スマートシティ応用ソリューション。例えば、電子ペーパーを応用した太陽光エネルギーを利用したバス停案内表示がある。配線工事等も特に不要で、曇りや雨の日でも太陽光発電と内蔵された蓄電池で連続14日間利用することが可能。屋外用液晶ディスプレイを比較すると消費電力は1%未満。他にも没入型ディスプレイやチャット GPT を活用した AI ナビゲーターなど様々なソリューションを開発及び実証実験を行なっている。

関連施設は円山太飯店の近くにもあり、色々なバーチャル体験ができるようになっている。また、Fintech の実証実験の場やスタートアップのインキュベーションセンターになっている Fintech スペースや、高雄の類似のラボのスペース、どこに行っても 5G が使える 5G のモバイルカーなどを有している。

Living Lab+に限っては、100%トリプルアイの資金で運転をしている。トリプルアイが自己資金で運営している理由は、政府の KPI や目標に制限されずに、色々なアイデアを受け入れることができるため、本当のオープンイノベーション施設を実現することができる場所にある。分野においては特定の分野に限ったものではないが、文化やスポーツ、スマートディスプレイの分野が比較的多く展示されている。また、政府の様々なプロジェクトの事業を受託しているため、様々なリソースを共有し、プロジェクトを実行している。

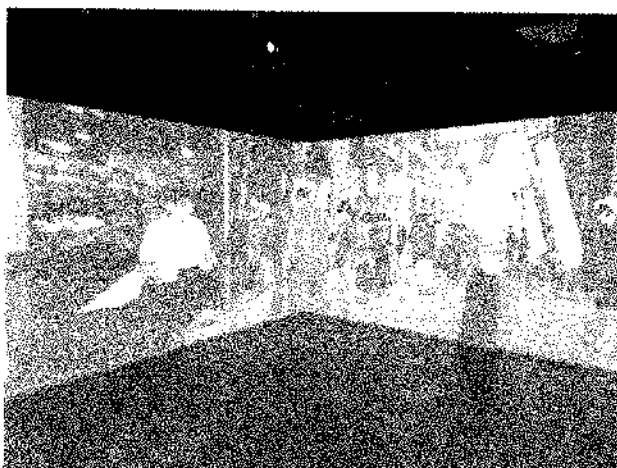
Living Lab+は、様々な設備を持っており、新製品の開発や実験、開発したものの展示など、事前申請をすれば誰にでも貸し出すことが可能で、あらゆる面から可視化することが可能。

トリプルアイは今年 44 周年を迎え、様々な産業界とのネットワークを有している。例えば、スターバックスがどのように商品化をするか、そういったアドバイザリーサービスを提供している。

Living Lab+でレーザープリンター、3D プリンター、没入型のディスプレイ、スタジオを活用したライブ、それら動画の作成、発表会やセミナーの開催、4つのウェブ会議の同時開催、CM 撮影、デジタルゴルフのコース体験、モーションキャプチャ、14 階のジムの利用、スマート自動販売機などの利用が可能。利用申請は容易に可能だが、申請が通ったら実証実験等の全てのデータをトリプルアイと共有しなければならない。利用する側のメリットとしては、技術を必要としている企業とのマッチングを早期に可能であること。また、トリプルアイが様々な政府のプロジェクトを実行しているため、政府のプロジェクトとのマッチングも可能で、政府の補助金を申請することができること。他にもトリプルアイがファンドと IoT 企業との交流会イベントを主催するなど、企業にニーズに対して実際に成果がみられている。

学生たちが実際に何かをデザインして商品にしていくなど、学校とのコラボレーションも行っている。イノベーションの過程では多くの失敗から学ぶことも多々あり、それが企業にとってポジティブに繋がっている。トリプルアイはそういったコラボレーションを後押しをしている。

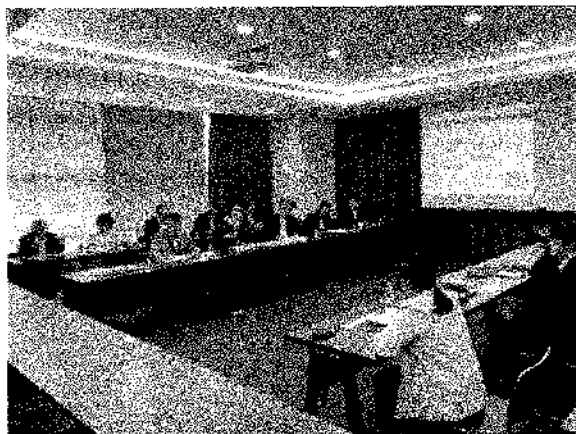
端的に纏めると、トリプルアイでは、場所の貸し借りだけでなく、一緒に開発した製品を実証実験としてデータ収集をし、出来上がった物の商品管理やマーケティング、コンサルティングサービスまで提供できる場になっている。日本での実証実験を望む声もあるため、今後もスタートアップ連携や実証実験の場として浜松との交流を促進していきたい。



日時：2023年8月24日（木）9：00～10：30

視察先：新光三越百貨店

目的：本市の農林水産品の海外販路拡大事業において、対象国の台湾の流通の現状を確認し、これまでの成果と課題、コロナ禍における状況の変化や輸出規制の最新情報を調査し、今後の本市産品の取り扱いや商談ルートの拡大等に関する戦略計画について研究を行う。



今回訪問した新光三越がある立地は、日本で言えば銀座であろうか。近隣には台湾を象徴する101タワーがあり、陶朱隠園という台湾最高額と聞く不動産が徒歩圏内の立地にある。101タワーも陶朱隠園も施工したのは日本の熊谷組だ。陶朱隠園においては、バルコニーに23,000本をこえる植栽を施し、年間約130トンの二酸化炭素（CO2）を吸収するという。環境にも配慮した街づくりは台湾でも健在だ。

新光三越では、三越伊勢丹から出向している日本人担当者がご説明してくれた。予想していたとおり、台湾の方々は日本に対して非常に好意的に感じており、日本産品の農産物やお菓子、食文化などは関心が高いという。浜松特産のコンテンツで言えば、鰻は台湾人が関心を持っている今後伸びそうなコンテンツとのこと。一次産品を含めた浜松の商品や食文化等が台湾の方々に好んでもらえるよう、地元産品の輸出促進に取り組んでいきたい。

【意見交換 要旨】

世界的なコロナの猛威によって経済に大きな影響を与え、今もまだ回復途上ではあるが、台湾はコロナ禍においても半導体が牽引しており、経済が好調に推移している。台湾の富裕層によって、高級スーパーも小売業界の一翼を担うマーケットとして存在している。2020年から世界的にコロナの猛威に見舞われたが、台湾はコロナをしっかりとコントロールしていたため他国と比較しても普段通りの生活がおくることができた。

新光三越の売上は、2020年に最高売上を記録。2021年にコロナの拡大に伴い、レストランやフードコートで飲食が全面禁止の期間が約2.5ヶ月あって非常に厳しい状態だったが、それでも2021年も2020年に匹敵するほどの売上を上げることができた。2022年は年間で1億4000万人の延べ来客数があり、約886億台湾元（日本円で約3,900億円）と売上記録の最高額を塗り替えた。台湾の人口は2300万人ということもあり、1億4000万人のお客様が来ていることを鑑みれば、新光三越が如何に台湾の方々に浸透されているのが理解できる。

新光三越は、1989年に日本三越と台湾コングロマリットである新興グループの合併によって創建され、現在、台北、台中、台南、高雄など台湾全土で15店舗、中国大陆に大型店舗3店舗で運営。台湾では唯一の百貨店グループとなる。台湾の百貨店は右肩上がりマーケット。カテゴリー別に見ると、ラグジュアリーブランドの売上が全体の約17%と好調。コロナで海外に行けない富裕層が新光三越に来客した経緯もあり、日本の百貨店業界では考えられないくらい非常に好調に推移している。現在、台北市内にダイヤモンドタワーという超高級マンションが建設されており、そのマンションの1階～4階まで三越が出店することとなっている。2023年9月中旬にソフトオープン、11月にグランドオープンを予定。台湾では、三越以外にも三井不動産のららぽーとが開店したりと新しい商業施設がどんどん誕生している。

台湾においても EC 市場が存在しているが、リアル店舗での購買ニーズの方が強い。新光三越でも 2021 年にオンラインをリニューアルして力を入れたところ、最大で前年比 1,000% というぐらい拡大した。しかしそれでも全体の 5% 程度の売上シェアだった。

台湾のお客様は、日本のクオリティや製品に対する関心が高いが、輸出入の面でハードルがあるのも事実。例えば、日本では細かく成分調査されていないものでも、台湾は輸入品の糖分や油分などの成分表示など細かい記載義務があり、トランス脂肪酸などの含有量においても輸入できないものがあるため、台湾への輸出のために成分を調査しなければならずコストがかかる点が挙げられる。

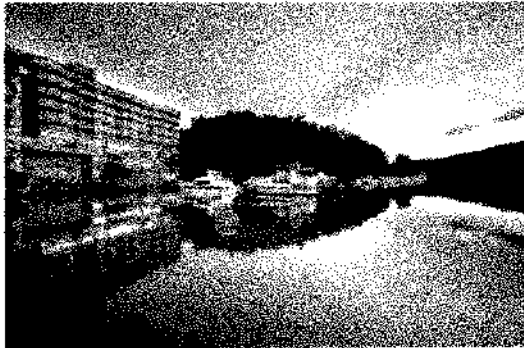
台湾は外食文化があり関心が高いため、百貨店ではフードコートに力を入れている。商品で言えば、健康志向という点とすぐに食べられるという点がポイント。サツマイモなんかも冷凍で販売して解凍後すぐに食べられるものが人気だが、日本の流行や人気ブランドの野菜や果物などの把握に関しては、台湾でも IT の普及によって情報にアクセスできるようになっており、情報差はない。日本のシャインマスカットや桃は人気が高い。台湾で手に入らないものが売れる傾向。日本では冷えたビールが人気だが、体の代謝を下げるような冷えた飲み物を嫌気する傾向もあって冷えてないビールを飲むなど、健康に対する関心軸は日本人以上に高い。



日時：2023 年 8 月 24 日（木）17：00～19：00

会場：浜名湖・日月潭友好交流会

目的：本市主催で、浜松市と日月潭のある南投県政府関係者及び観光関連の関係者との交流会に出席。相互交流に加え、相互の観光施策の取り組みについて意見交換を実施。



陳志賢南投縣政府觀光處長をはじめ、簡慶發交通部觀光局日月潭國家風景區管理處など、日月潭の関係者 21 名と、天竜浜名湖鉄道の松井直正代表取締役社長や（公財）浜松・浜名湖ツーリズムビューローの鈴木康久誘客推進マネージャーなど浜松市から 26 名の計 47 名で開催された交流会に出席した。和やかなムードの中、通訳を介してお互いの取り組みや相互の関心事項など、話は多岐に渡り、非常に有意義な場であった。日月潭に観光船が 100 以上もあり、観光を取り巻く団体は 47 もあると伺った。似たような風景であるものの、観光資源への力の入れ方が浜名湖とは大きく違うと感じた。今後も日月潭との相互訪問や種々の交流を深め、浜名湖をはじめとした浜松の施策に活かしていきたい。



日時：2023年8月25日（金） 9：00～10：30

視察先：日月潭・国家風景区管理处（向山ビジターセンター）

目的：日月潭の観光戦略と実態について調査し、交流協定における今後の在り方や観光振興計画を学び、浜名湖の観光政策に活かす。

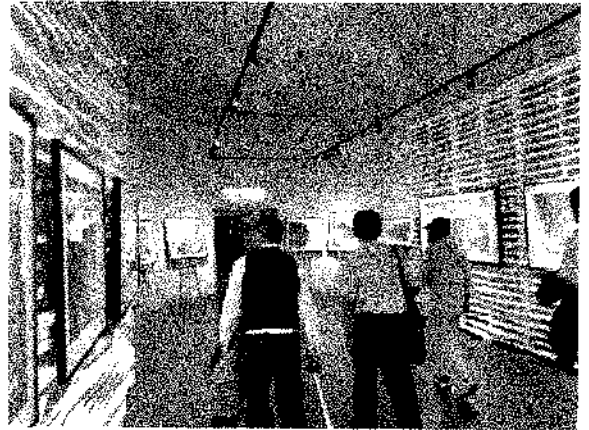


日月潭・国家風景区管理处（以下、ビジターセンター）は、日月潭を訪れた方がまず訪れると言っても過言ではない施設だった。日月潭の歴史的背景から現在に至るまで多くのことがここで情報収集することが可能だ。到着後、まず見せていただいたのは日月潭の四季折々の風景や見所を詰め込んだプロジェクター映像だった。日月潭に溶け込んだような流麗な形をした施設だけでもかなりのコストが掛かっていることが容易に想像ができたが、冒頭の映像もかなりのお金が掛かっているのがよく分かった。ビジターセンターは、日月潭を抱くようなイメージで、周辺の風景に溶け込んでいる姿が印象的だ。建物は二つの棟で構成され、屋上から日月潭が一望することが可能。建物の内外に巧みに配された水と緑、そして打ちっぱなしのコンクリートがシンプルながら見事な対比を構成していた。

ビジターセンターには、年間10億円が国から拠出されており、ビジターセンターの運営費や観光施策に活用されているという。浜名湖の予算とは比較できないほどの差がある。また、全長約30kmの自転車周遊道路が綺麗に整備されており、湖を一周する楽しむことができる。年間800万人が訪れる日月潭のこうした観光施策を参考に、浜名湖の観光施策にも活かしていきたい。

【意見交換 要旨】

- ・日月潭は昔からハネムーンのメッカとなっており、多くの若者が写真撮影に訪れる。
- ・紅茶、林業、陶芸、盆地の地形により気候や水源に恵まれ、野菜や花の栽培が盛ん。
- ・海拔は約750m。山々に囲まれた優美な風景が広がり、日月潭は拉魯島（lalu、サオ族の祖霊の地）を境に、東西両側が「日輪」と「三日月」の形に似ていることから、「日月」の名が生まれた。水資源が豊富なことから、水力発電の地となり、生態系の重要拠点でもある。昨今、外来種のタイガーフィッシュが在来種を食べてしまい生態系が破壊されつつあり、地元の懸念点となっている。なお、日月潭で魚の養殖はやっていない。
- ・台湾には16部族が存在し、そのうちの1部族がサオ族。言い伝えでは、原住民サオ族の祖先は阿里山に住んでいたが一頭の白鹿を追って日月潭を発見し、当地に移住。清朝になってから漢民族などが開墾した。
- ・日月潭の木材を使ってビジターセンターを作った。直線で作った方が建築しやすいが、曲線を主に採用し建築した。ビジターセンターには、日月潭周辺の集集、陶芸、木工、紅茶その他農産物を展示。併設されているギャラリーには、季節ごとに異なるテーマで展示会を開催している。また、3D立体映像およびHDブルーレイ高画質により当地の魅力を魅力を感じられるようにしている。
- ・日本統治時代（1931年）に日本が日月潭に水力発電を作った。当時、日月潭第一発電所（現大観発電所）は、10万キロワットの発電量を誇る東洋一の水力発電所として台湾全島に電力を供給した。この巨大事業に取り組んだ日本人が「台湾電力の父」と今も台湾人から尊称されている松木幹一郎。
- ・他方、水力発電建設によって日月潭の水位が上昇し、原住民であるサオ族の聖地として崇められている日月潭湖上にあるラル島が水没。不幸にも、1999年9月に発生したMw7.6の台中地震により更に水位が上昇・水没し、ラル島は現在の島を形作った。



令和5年8月23日(水)～8月25日(金)

加茂俊武

訪台視察団 加茂俊武 露木里江子 小野田康弘

日時:2023 年 8 月 23 日(水)15:00～17:00

■ 視察先:財団法人資訊工業策進会

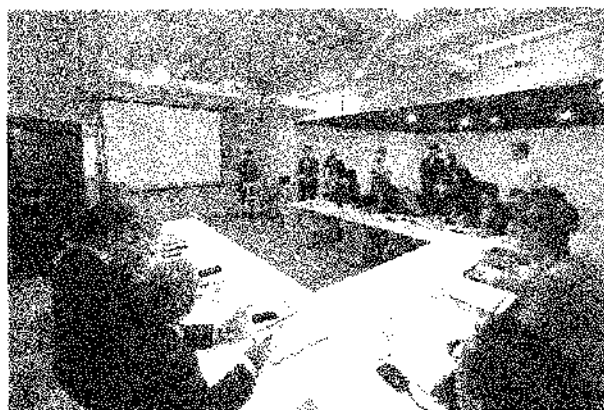
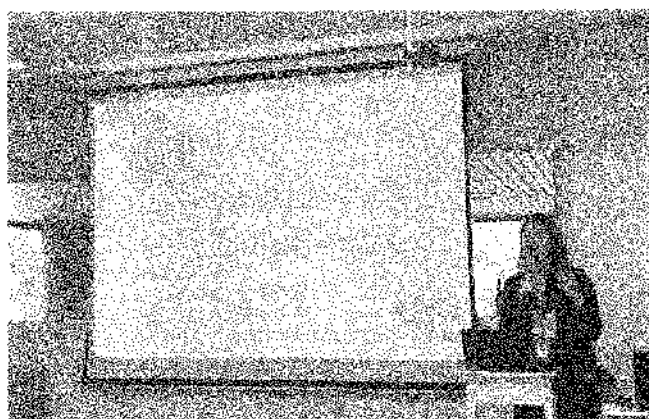
(Institute for Information Industry 通称:III(トリプルアイ)) Living Lab +

【説明内容、概要】

1979年に官民共同で、設立された財団法人資訊工業策進会、通称:III(トリプルアイ)は、「情報技術応用の普及、国家全体の競争力向上、情報工業発展環境と条件の形成」を目的とした情報産業の研究と発展、及びデジタルイノベーションを支援する非営利研究機関である。

III(トリプルアイ)の研究と開発は、クラウドコンピューティング、人工知能(AI)、セキュリティ、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)などである。例えば、太陽光を利用した電子ペーパーによるバス停案内、独自アルゴリズムを使用した高品質の LED パネル、翻訳をリアルタイムでディスプレイ表示できるシステムなどは、実用化されている。

台湾政府は、台湾経済を牽引するのは、IOT 産業であるという目標のもと、資金面の提供と民間専門



家の派遣を通じて大手企業と連携している。

「Living Lab +」は、実際の生活環境での試験と実証実験を通じて、新しい技術やサービスの開発、改善、評価を支援している。これにより、各種課題を解決する革新的なアプリケーションを生み出し実用化される可能性を高めている。そして、産業界、政府機関などと連携し、協力プロジェクトを実施し、各種ソリューションを提案している。特に、視察にて体験をしたフィットネスでは、ゲーム感覚でエクササイズを楽しむものが印象的であった。

【所感】

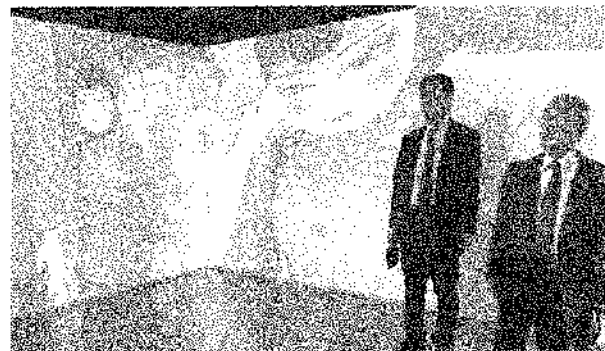
まずは、説明を頂いた候さんの流暢な日本語に驚いた。社員のうち数名の方が日本語を理解でき、台湾は、日本にとって重要なパートナーであると改めて感じた。我々は、委員会の為、参加できなかったが、中野市長と台北市長が、直接会い、2013年に観光交流都市協定を締結してから10周年となる本年、名称を友好交流協定とし、更新した協定書に署名したことは大きな意味を持つと感じた。

III(トリプルアイ)は、政府の経済目標と合致した官民連携のモデルであるのではないかと感じた。我々、自由

民主党浜松は、IT 系大学の誘致を提言している。それについては、こうした民間企業との連携はかかせないものである。一流の研究者やプログラマーを育て、浜松の発展に寄与してもらう人材を育成することは非常に有意義なことである。

また本市は、浜松ウェルネスプロジェクトを推進している。「予防・健幸都市の実現」の為、医療関係者、大学、商工会議所をはじめとした関係団体、金融機関、そして地域企業とともに、「疾病・介護予防」や「健康づくり」と、成長産業として期待される「ウェルネス・ヘルスケア産業の振興」に取り組んでいくとしており、こうした III のような企業が貴重なパートナーになりうると思う。

浜松市ではデジタルファースト宣言をしており、戦略の都市づくり、市民サービスのデジタルファーストにおいて III と連携することが可能ではないかと感じた。また官民連携プラットフォームが設立されたが、今以上に、この III のようなベンチャー企業への支援が必要ではないか。



■日 時■ 2023年8月24日(木)9:00～10:30

■視察先■ 新光三越百貨店 總公司商品部餐飲和食品 林倩瑜さん 経理 岸純一郎さん

<概要>

1 海外販路拡大事業の沿革

平成 26 年度、ジェトロ浜松事務所開所を契機に「農林水産物・食品輸出促進委員会」を設立。台湾、香港、マレーシア、シンガポール等を対象に、海外食品見本市出展支援、テストマーケティング支援、プロモーション(浜松フェア in○○)、セミナー、バイヤー招聘・マッチング、販路開拓のための市場調査を実施している。

2 台湾事業の状況

- ・H27～31 台中「裕毛屋」でのプロモーション
 - ・H30～31 フードタイペイ出展 ※H29 に視察
 - ・R2～台中の裕毛屋の営業状態の変化(コロナ禍一時閉店→再開、新規出店計画の中止)
- フードタイペイ(ジャパンパビリオン)への出展ニーズの減少 により中断
- ・輸出規制 輸出不可…トマト、植物検疫証明書不要で可…緑茶(製茶)、コメ。その他の多くは、植物検疫証明書を添付すれば可

3 これまでの実績

- ・裕毛屋を展開する聯裕源は、国内(厚木市)に拠点を持っていることから、試行期の事業者に対してテストマーケティングの機会を提供することができた。三立製菓(聯 裕毛屋ほか)、うなぎいも協同組合

(沖縄県物産公社→商田實業有限公司→三越ほか)など、一部の事業者は商流を確立できた。

<説明内容>

台湾の流通の売り上げは、百貨店27.1%、コンビニ27.6%、スーパー18.6%。

コロナ禍で海外に行けない富裕層が来客しラグジュアリーブランドの売り上げが全体の約 17%と好調。

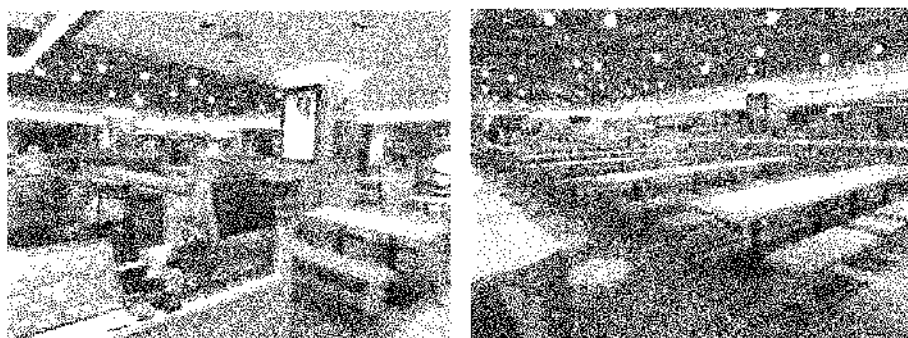
2023 年 11 月にグランドオープンを迎えるダイヤモンドタワーという高級マンションの 1 階～4 階まで三越が出店することになっている。他にも日本から三井不動産のららぽーとなど、新しい商業施設が出店している。

台湾のお客様は、日本製品に対する関心が高く他の国のものと比べると 1 ランク上と感じている人が多い。

日本食材の輸入規制は、成分表示を日本よりも明確にする必要がある。例えばトランス脂肪酸の含有量は日本の基準よりも厳しい指定となっている。

桃やシャインマスカットなどの日本産フルーツは人気が高い。

台湾の人たちは家で料理を作って食事をするという人があまりなく、外食に頼る人がほとんどなので百貨店ではフードコートの充実を図っている。



<所感>

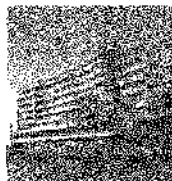
百貨店のシェアが27%を超えるということは、台湾のお客様は、高級志向であることが伺える。台湾における日本製品の人気は、相変わらず高いということで、高級ブランドとしてイメージが定着しているのだろう。また、日本の百貨店と違い家族層をターゲットにしている戦略が、功を奏している印象がある。家族層、若者をターゲットにしているが、決して日本製品は安くないが好調に推移している。これは、ブランドイメージにプラスして信用度が高いことが要因であるという。

日本製品の輸入に関する課題は、日本より厳しい成分表示である。サンプルを提出し検査部門の審査を受け輸入可能かの判断がされ、問題があれば解決を図るとのことだが、このハードルをクリアする為の支援は必要になるであろう。

日本製品が売れる条件は、SNSで取りあげられていて、台湾には無いものである。現状は、桃、シャインマスカットなどの果物類の人気が高いことを考えると日本産がタイで爆売れしている「さつまいも」や浜松の名産「みかん」などはかなりの可能性を秘めている。外食を好み、家では食事をしないことが多い台湾人にとると、すぐ食べられるものを輸出することが良いだろう。商談会への参加を促す際には、以上のようなことを業者に伝える必要がある。浜松パワーフードを全面に押し出し食のまちとしてPRしている本市は台湾でも十分に売れる商品があると感じた。友好交流協定に名称を変え、新たな関係強化が図られた今後においては更なる市場拡大が望めるであろう。その為にも一過性とせず自治体間での特産品の相互流通、給食での活用などによる販売量の確保など、研究を惜しまず継続していくことが重要である。

8月24日 浜名湖・日月潭友好交流会 17:00～ 日月潭 大来亭(ホテル デルラージュ)

- 1 主催者挨拶 浜松市長 中野祐介
- 2 来賓挨拶 南投县政府観光処長 陳志賢
- 3 乾杯 浜松市議会議長 戸田 誠
- 4 両都市紹介 浜松市プレゼンおよび南投県プレゼン
- 5 閉会挨拶 浜松市産業部観光・ブランド振興担当部長 齊田 一朗



日月潭参加者

	所属	役職	氏名
1	南投县政府観光處	處長	陳志賢
2	南投县政府観光處	科員	孫以珊
3	南投县政府観光處	約僱	劉益宏
4	交通部觀光局日月潭國家風景區管理處	處長	簡慶發
5	交通部觀光局日月潭國家風景區管理處	副處長	廖錫標
6	交通部觀光局日月潭國家風景區管理處	課長	賴嵩鈺
7	南投縣觀光產業聯盟協會	理事長	魏振宇
8	南投縣渡船遊艇商業同業公會	理事長	王英生
9	台灣民宿協會	理事長	彭成裕
10	九族文化村(纜車)	經理	黃瑞奇
11	南投縣旅館商業同業公會	理事長	李吉田
12	中華民國民宿協會全國聯合會	總會長	張心盈
13	南投縣觀光產業聯盟協會	輔導理事長	林志穎
14	南投縣北港溪溫泉觀光發展協會	理事長	李浩璋
15	南投縣觀光工廠協會	理事長	翁啟富
16	南投縣清境觀光協會	理事長	張宏毅
17	南投縣太極美地發展協會	理事長	劉鶯霖
18	南投縣遊覽車客運商業同業公會	理事長	潘士宏
19	日月潭觀光旅游協會	理事長	鄭人維
20	日月潭觀光旅游協會	名譽理事	唐玉霞
21	日月潭觀光旅游協會	常務理事	林茗璋

浜松市参加者

	所属	役職	氏名
1	浜松市	市長	中野 祐介
2	浜松市議会	議長	戸田 誠
3	浜松市産業部	観光・ブランド振興担当部長	齊田 一朗
4	浜松市産業部観光CP課	海外戦略担当課長	影山 元紀
5	浜松市産業部観光CP課	主任	今津 宏樹
6	浜松市市議会	議員	柳川 樹一郎
7	浜松市市議会	議員	渥美 誠

8	浜松市市議会	議員	花井 和夫
9	浜松市市議会	議員	鳥井 徳孝
10	浜松市市議会	議員	加茂 俊武
11	浜松市市議会	議員	稲葉 大輔
12	浜松市市議会	議員	井田 博康
13	浜松市市議会	議員	露木 里江子
14	浜松市市議会	議員	神間 郁子
15	浜松市市議会	議員	藤田 典良
16	浜松市市議会	議員	鈴木 裕之
17	浜松市市議会	議員	小野田 康弘
18	(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー	誘客推進マネージャー	鈴木 康久
19	天竜浜名湖鉄道株式会社	代表取締役社長	松井 宜正
20	天竜浜名湖鉄道株式会社	営業部長	高木 信哉
21	浜松市	通訳	モンティン
22	浜松市	通訳	李 玉梅
23	浜松市	通訳	
24	浜松市議会	通訳	宗 子明
25	浜松市議会	添乗員	杉村 泰樹
26	天竜浜名湖鉄道株式会社	通訳	

日時 2023年8月25日(木)9:00~10:30

視察先 日月潭・国家風景区管理处(向山ビジターセンター)

<概要>

協定名称	浜名湖と日月潭の友好交流に関する協定																	
締結日	平成28(2016)年8月28日																	
締結場所	日月潭(雲品ホテル(南投県魚池郷日月潭))																	
調印者	浜名湖観光圏整備推進協議会会長:鈴木康友浜松市長、 南投県観光産業連盟協会理事長 :李 吉田(一) ※川勝平太静岡県知事、 林 明濤県南投県知事、交通部観光局日月潭国家風景区 管理処 処長 張振乾が立会人として出席した。 ※包括協定としての上記のほか、以下の組み合わせで個別協定も締結された。 <table><thead><tr><th>日本側</th><th></th><th>台湾側</th></tr></thead><tbody><tr><td>(公財)浜松観光コンベンションビューロー</td><td>⇔</td><td>日月潭観光旅游協会</td></tr><tr><td>浜名湖遊覧船株式会社</td><td>⇔</td><td>南投県渡船・遊覧船協会</td></tr><tr><td>天竜浜名湖鉄道(株)※</td><td>⇔</td><td>台湾鉄路管理局(集集線)※</td></tr><tr><td>遠鉄観光開発(株)°(ロープウェイ・遊園地)</td><td>⇔</td><td>日月潭ロープウェイ(株)(九族文化村ほか)</td></tr></tbody></table> ※天浜線・集集線の協定は8月27日に締結			日本側		台湾側	(公財)浜松観光コンベンションビューロー	⇔	日月潭観光旅游協会	浜名湖遊覧船株式会社	⇔	南投県渡船・遊覧船協会	天竜浜名湖鉄道(株)※	⇔	台湾鉄路管理局(集集線)※	遠鉄観光開発(株)°(ロープウェイ・遊園地)	⇔	日月潭ロープウェイ(株)(九族文化村ほか)
日本側		台湾側																
(公財)浜松観光コンベンションビューロー	⇔	日月潭観光旅游協会																
浜名湖遊覧船株式会社	⇔	南投県渡船・遊覧船協会																
天竜浜名湖鉄道(株)※	⇔	台湾鉄路管理局(集集線)※																
遠鉄観光開発(株)°(ロープウェイ・遊園地)	⇔	日月潭ロープウェイ(株)(九族文化村ほか)																
協定主旨	・浜名湖と日月潭の友好交流の推進により、湖の資源を最大限に活かし、観光地としての魅力の一層の向上を図る。 ・相互に湖の魅力や観光情報を発信し、双方の情報発信力の強化に努める。																	

	・両地域の事業やイベントへの参加に努めるとともに、両地域におけるプロモーション活動等に相互協力する。 ・湖の魅力を活かしたサイクリングや遊覧船、ロープウェイ等の個別分野の連携や観光機構、観光団体等の民間交流を促進する。 ・湖の魅力を活かした誘客や地域活性化の取組等について共有し、各地域の魅力向上や交流人口の拡大を目指す。
締結理由	・日月潭は台湾最大とも言われる観光地であり、ロープウェイや遊覧船、ローカル鉄道などもあり、浜名湖と状況が近似している。 ・サイクリングのみならず、観光分野全般の交流を推進し、浜名湖を発信する機会と捉えられる。
交流事業 (締結後)	平成 28 年 台湾交通部観光局長が来浜し、天浜線、遊覧船、ロープウェイ視察。 10/8 日月潭のサイクリングイベントに「浜松・浜名湖」のブース出展(企画旅行のサイクリング参加訪問団同行)。 11/12-13 湖サミット開催に向けた南投県との調整。 ・天浜線、集集線いずれかの使用済乗車券(2016.8.27-2017.12.31 間のもの)を相手側窓口に持参すると、1日乗車券を無償提供。 12/16 (その他民間) ・訪台時に受領した記念品と日月潭の写真をロープウェイチケット売り場に展示。 平成 29 年 サイクルイベント、湖サミットについて南投県政府にて打ち合わせ。 10/27 日月潭サイクリングイベントへ出展し、浜名湖サイクリングのPRを実施。 11/12 浜名湖、西湖、日月潭関係者による、湖サミット開催。 ・台湾鉄路管理局主催の「台湾美食展(駅弁イベント)」(7/23, 24)に天浜線が出展し、饅弁当をPR。 12/6-8 (その他民間) 平成 30 年 長田副市長が日月潭を訪問、南投県政府関係者等と意見交換。 8/23 サイクリングイベント「日月潭 Come Bike day! 」へ出展し、 11/17,18 浜名湖サイクリングのPRを実施。 令和元年 11/3 令和 3 年 令和3年および4年は現地 REP 対応により、同上サイクリングイベントへ出展し、浜名湖サイクリングのPRを実施。 11/13 令和 4 年 11/12 令和 4 年 南投県政府、日月潭観光旅遊協会を訪問、アフターコロナにおける交流事業継続を確認する。 12/12

令和 5 年	南投県長 許淑華氏に就任祝いの親書送付
2/3	南投県長に、中野浜松市長着任挨拶の親書送付
5/26	南投県政府、日月潭観光旅遊協会を訪問、市長の訪台について調整。
6/29	

<内容説明>

- ・日月潭は昔からハネムーンのメッカとなっており、多くの若者が写真撮影に訪れる。
- ・紅茶、林業、陶芸、盆地の地形により気候や水源に恵まれ、野菜や花の栽培が盛ん。
- ・海拔は約 750m。山々に囲まれた優美な風景が広がり、日月潭は拉魯島(lalu、サオ族の祖霊の地)を境に、東西両側が「日輪」と「三日月」の形に似ていることから、「日月」の名が生まれた。水資源が豊富なことから、水力発電の地となり、生態系の重要拠点でもある。昨今、外来種のタイガーフィッシュが在来種を食べてしまい生態系が破壊されつつあり、地元の懸念点となっている。なお、日月潭で魚の養殖はやっていない。
- ・台湾には 16 部族が存在し、そのうちの 1 部族がサオ族。言い伝えでは、原住民サオ族の祖先は阿里山に住んでいたが一頭の白鹿を追って日月潭を発見し、当地に移住。清朝になってから漢民族などが開墾した。
- ・センターの建築設計は、直線で作った方が建築しやすいが、曲線を主に採用し、日月潭の木材を木型とし、木目を残す施しがされており、建築デザインとしても魅力的なものとなっている。
- ・ビジターセンターには、日月潭周辺の集集、陶芸、木工、紅茶その他農産物を展示。併設されているギャラリーには、季節ごとに異なるテーマで展示会を開催している。また、3D 立体映像および HD ブルーレイ高画質により当地の魅力を感じられるようにしている。
- ・日本統治時代(1931 年)に日本が日月潭に水力発電を作った。当時、日月潭第一発電所(現大観発電所)は、10 万キロワットの発電量を誇る東洋一の水力発電所として台湾全島に電力を供給した。この巨大事業に取り組んだ日本人が「台湾電力の父」と今も台湾人から尊称されている松木幹一郎。
- ・他方、水力発電建設によって日月潭の水位が上昇し、原住民であるサオ族の聖地として崇められている日月潭湖上にあるラル島が水没。不幸にも、1999 年 9 月に発生した Mw7.6 の台中地震により更に水位が上昇・水没し、ラル島は現在の島を形作った。

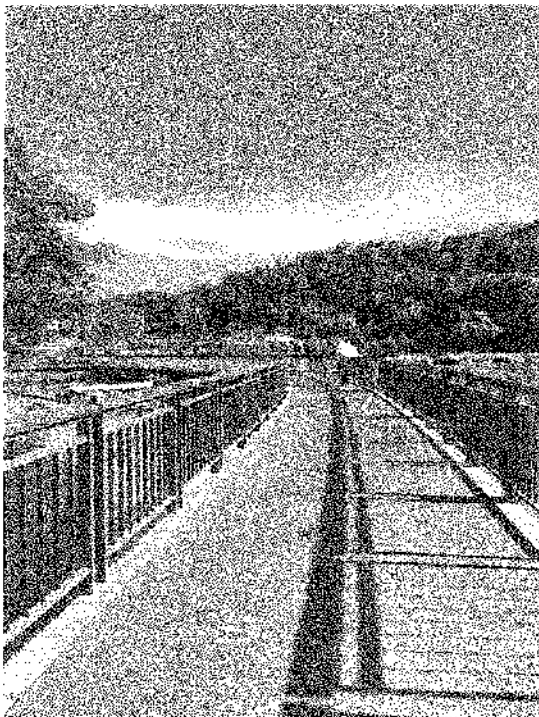
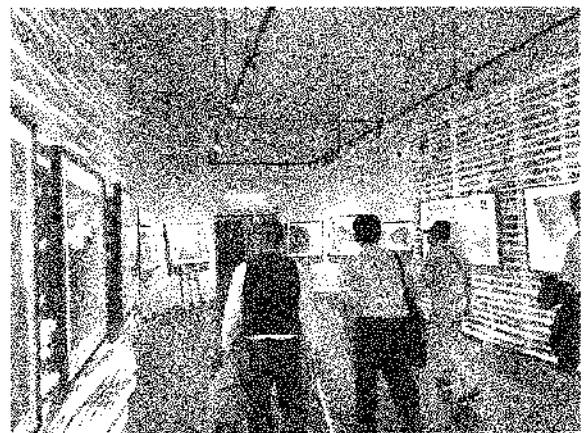
<所感>

日月潭・国家風景区管理处(以下、ビジターセンター)は、日月潭を訪れた方が必ず訪れると言っても過言ではない施設であった。日月潭周辺の風景に溶け込めどおり、建物は二つの棟で構成されている。屋上から日月潭が一望することが可能である。建物の内外に水と緑が配置されており、そしてコンクリート面がそのまま残っているが、それが風景に調和しバランスがとれている。本市でいう観光協会の建物自体が観光地となり観光客が訪れることになる。集客、PR を一度に実現する、まさに一石二鳥である。

その中でも、日月潭の四季折々の風景や見所を詰め込んだプロジェクター映像は見ごたえがあり、静岡県伊豆堂ヶ島のピアドーム天窓を思い出した。

本市でも一考の余地があるが、考えるべきは、やはり財源である。日月潭は、国からの支援があり成り立っていることは否めないが、本市においても国・県・市と協力すれば実現が見えてくるであろう。

管理費について、年間10億円の補助が国から支出されており、台湾では、国策としてインバウンドを含めた観光産業を支えている。本市では、管理費の国、県負担は、厳しいであろうことから収入源をしっかりと考え、民間運営による施設管理が出来ることが条件となるであろう。さらに湖には、全長約30kmの自転車周遊道路が綺麗に整備されており、遊覧船とともに、観光の目玉となっている。年間800万人が訪れる日月潭のこうした観光施策は、よく似た環境の浜名湖に当てはまる部分も多くあると感じた。今後の浜名湖の観光施策におおいに参考になった。



日 時： 令和 5 年 8 月 23 日～25 日
特別委員会のため、23 日午後より参加

視察議員： 柳川樹一郎 渥美誠 花井和夫 鳥井徳孝 加茂俊武 稲葉大輔
齋藤和志 井田博康 小野田康弘 神間郁子 藤田典良 鈴木裕之 露木里江子

所 感

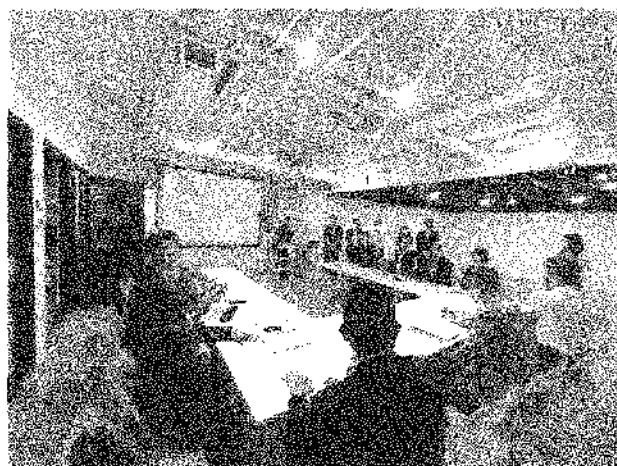
【台湾財団法人資訊工業策進会 Living Lab+ 現場視察】

財団法人資訊工業策進会、III(トリプルアイ)では、玄関において各自のスマートフォンでの AR 体験での歓迎を受けた。1階にある卵等のイノベーション自販機は市民誰でも利用ができる。14 階建てのビル、Living Lab +は政府所有で III(トリプルアイ)が運営管理を行っている。

台湾古都の風景絵画の没入型インタラクティブプロジェクション、レーザープリンターやバーチャルスタジオなどを見学・体験した。没入型インタラクティブプロジェクションは、独自開発のアルゴリズムを使用して細部まで再現し高品質の三面の LED パネルに投影するもので、絵画の中の街を進んで歩いているように感じるものであり、アートや観光、高齢者や障害者の方の利用など様々な活用ができると感じた。AI による自動翻訳画面により、会話も体験した。浜松市でも戦争の AI を活用した語り部も、IT ベンチャー企業の技術で実現しており、これから AI が人材不足も補ってゆくことを実感した。

イノベーションのプラットフォームである点では、浜松市のザザシティ中央館地下一階にある「FUSE」(浜松磐田信用金庫)と同じような役割を持つ施設であるが、III(トリプルアイ)は半官半民で設立された組織であり、台湾政府のシンクタンクとして国家プロジェクトも行っているなどスケールは大きいものであった。

太陽光発電や蓄電池を利用したバス停の案内表示は、ナイトビジョン フロントライト技術も用い、屋外用液晶ディスプレイと比較すると消費電力は 1%未満であり、設置に電源が必要ないので、郊外においても設置が容易である。さらにクラウドバス停時刻表管理システム、マルチメディア管理システムなども実証実験も済んでおり、電源が必要なく、大変便利である。



14 階では、フィットネスセンターがあり、スマートフィットネスソリューションを活用したエクササイズが体験でき、利用者はテスト対象者である。

Living Lab +では、ユーザー中心の実証実験が推進され、製品とサービスをテストし、改善してゆくことが可能であり、そのアドバイスも受けられる場となっている。

ベンチャー企業において、アドバイザーマッチングが大変重要であり、ビジネスの成長をサポートするには、特定のニーズに合わせたコンサルティングが必要であり、それが Living Lab +であるのだと理解できた。

浜松市においては、「デジタルファースト宣言」により、デジタル・スマートシティによる都市の最適化を目指し、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォームが設立されたが、スタートアップ推進施策ともさらに連携し、FUSE などとともにスピード感を持った具体的なベンチャー企業の支援が必要であると感じた。

【新光三越百貨店】 農林水産品販路拡大事業

日本ブランドの需要が高いことを実感した。

台湾での流通は、富裕層が百貨店でより信頼ができ、より高級なものをと求めることで、流通全体の 30%近くを占めることとなっている。

日本では百貨店経由の流通が減ってきており、また台湾では外食が基本であってフードコートも充実しているなど、違いは大きい。しかし、この違いこそ、利用して台湾への輸出を促進すべきと感じた。自治体も介入し、販路拡大に注力すべきである。



【日月潭・向山ビジターセンター視察】

遊覧船・日月潭交流会に参加し、南投県観光協会会長、九族文化村理事長などと同じテーブルで交流を深めた。翻訳アプリが大変役に立ち、是非浜名湖花博2024にお越しくださいとお話してきた。

日月潭は、浜名湖との友好協定を結んでいる「台湾の宝石」と称される名勝地であり、ダム湖を除けば台湾最大の湖である。この日月潭の魅力を最大限に利用し、さらにサイクリングコースの整備などで、日月潭に更なる魅力を付加していると感じるとともに、浜松市は浜名湖の魅力を引き出しているのかと疑問に感じた。日月潭は、国・県をあげて観光資源として投資をしてきた。浜名湖の価値をどう高めてゆくか、市と県と国で考える時である。



自由民主党浜松視察台湾報告書

自由民主党浜松

小野田 康弘

◆視察日程 令和5年8月23日（水） ～ 令和5年8月25日（金）

◆視察日 令和5年8月23日（水）

◆視察先 財団法人資訊工業策進会 Living Labs

◆視察議員 鳥井徳孝 加茂 俊武 稲葉 大輔 露木 理江子 小野田 康弘
柳川 樹一郎 花井 和夫 渥美 誠 井田 博康 神間 郁子 鈴木 裕之
藤田 典良

◎所 感

財団法人資訊工業策進会、III（トリプルアイ）での体験は、非常に印象深かった。台湾のデジタル経済発展を牽引してきたトリプルアイは、創造性豊かでデジタル専門技術の高さがうかがえた。玄関では、各自のスマートフォンでのAR体験での歓迎を受けた。IIIはグローバル産業、マーケット動向を長期に渡り観測分析し、産官学研各界と密に連携し、「政府シンクタンク、産業コンサルタント」という位置づけから出発して、中長期的な社会経済、科学技術、を積極的に推進していることから、情報通信産業、デジタル経済の国家レベル政策立案に参画し、産業界が時代ニーズに見合った各種変革管理、デジタルトランスフォーメーションをスタートできる体制となっている。これが台湾のICT産業の躍進に繋がっていると感じた。

さらに、IIIは「科学、文化ともに栄える」という精神のもと、長年、グローバル研究開発、イノベーション関連法制度動向を追跡し、産官学研の知恵を結集して、知的財産管理、産業イノベーション体制、イノベーションサンドボックス、イノベーション起業に優しい環境作りなどの議題について、時代の先端をいく法的環境の充実を継続して

推進しており、ITベンチャー企業の発展にも寄与している。日本と比べると、IT分野では、先を行っていると感じた。

◆視 察 日 令和5年8月24日（木）

◆視 察 先 新光三越百貨店

◆視察議員 鳥井徳孝 加茂 俊武 稲葉 大輔 露木 理江子 小野田 康弘
柳川 樹一郎 花井 和夫 渥美 誠 井田 博康 神間 郁子 鈴木 裕之
藤田 典良

◎所感

新光三越は、高級ブランドから一般的な日用品まで、幅広い商品を取り扱っており、衣料品、アクセサリー、化粧品、食品、家庭用品など、多岐にわたる商品カテゴリーを提供している。コロナ化であっても海外に行けない富裕層が来店することにより、ラグジュアリーブランドの売り上げが好調であった。

今回は、食品に関する視察であったが、台湾における日本ブランドの食材及び品質には、相変わらず人気が高いと感じた。しかしながら、日本産農産物の輸入に関しては、安全基準の規制が障壁となっている。台湾では、輸入にあたって最も厳しい成分表示義務を課している国に合わせた成分調査と表示することにより、生産者と消費者との信頼関係が生まれていると考える。

本市は、数多くの品種を栽培している農業地帯でもある。農業振興のためにも海外への販路拡大が必要と考える。台湾での日本食材の人気を考えると、輸出への可能性と調査が今後必要と感じた。

◆視 察 日 令和5年8月25日（金）

◆視 察 先 日月潭・国家風景区管理处（向山ビジターセンター）

◆視察議員 鳥井徳孝 加茂 俊武 稲葉 大輔 露木 理江子 小野田 康弘
柳川 樹一郎 花井 和夫 渥美 誠 井田 博康 神間 郁子 鈴木 裕之
藤田 典良

◎所感

日月潭（Sun Moon Lake）は、台湾で最も美しい観光地の1つであり、向山ビジターセンターはその中心的な観光施設の1つです。当日、天候もよく素晴らしい景色に見とれてしまった。建物自体が環境に溶け込むようにデザインされ、周囲の自然と調和し、訪問者は、美しい湖や山々を眺めながら、リラックスした雰囲気の中で自然を楽しむことができる施設であると感じた。近代的な建築と伝統的な台湾の建築要素を組み合わせたデザインが特徴的で、屋根や柱、庭園などには伝統的な台湾建築の要素が取り入れられており、人々を魅了している。

ビジターセンターには、日月潭の四季折々の風景や見どころを詰め込んだプロジェクター映像施設があり、この映像の迫力と没入感は日月潭の魅力をさらに引き出していると感じた。

また、ビジターセンターには、年間10億円が国から拠出され運営されている。周囲には、30 kmに及ぶサイクリングロードが整備されており、湖を一周することができる。本市の浜名湖と同様の要素を持つ日月潭を参考に、浜名湖を訪れる観光客にとって魅力的な場所になるよう観光施策に活かしていきたい。